

2023年度 決算説明会資料

2024年 5月17日
南海電気鉄道株式会社
(東証プライム市場 9044)



‘なんかいいね’があふれてる
 **NANKAI**

目次

I. 2023年度 決算概要	2
II. 2024年度 業績予想	22
III. 中期経営計画「共創140計画」の進捗状況	29
IV. サステナブル経営の取り組みについて	53
Appendix	58

I. 2023年度 決算概要



業績ハイライト①

(単位:百万円)

	2023年度 実績 (A)	2022年度 実績 (B)	対2022年度実績		2023年度 予想 (2023年10月公表) (C)	対2023年度予想	
			増減額 (A-B)	増減率		増減額 (A-C)	増減率
営業収益	241,594	221,280	20,314	9.2%	248,000	△ 6,405	△ 2.6%
営業利益	30,820	21,023	9,797	46.6%	27,200	3,620	13.3%
営業外収益	2,461	2,264	197	8.7%			
営業外費用	3,970	4,322	△ 352	△ 8.2%			
経常利益	29,312	18,965	10,347	54.6%	25,400	3,912	15.4%
特別利益	8,236	3,009	5,226	173.7%			
特別損失	3,755	2,600	1,154	44.4%			
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,926	14,623	9,303	63.6%	21,800	2,126	9.8%

<主な増減理由:対2022年度実績>

運輸業における輸送人員の増加や、不動産業における物件販売収入の増加等により増収増益

<主な増減理由:対2023年10月公表予想>

貨物運送業における取扱高の減少等により減収となった一方、鉄道事業及びバス事業における輸送人員の増加や、費用の減少等により増益

‘なんかいいね’があふれてる

業績ハイライト②

(単位:百万円)

	2023年度 実績 (A)	2022年度 実績 (B)	対2022年度実績		2023年度 予想 (2023年10月公表) (C)	対2023年度予想	
			増減額 (A-B)	増減率		増減額 (A-C)	増減率
投資額	25,787	27,872	△ 2,085	△ 7.5%	48,100	△ 22,312	△ 46.4%
減価償却費	27,477	27,619	△ 141	△ 0.5%	27,600	△ 122	△ 0.4%
EBITDA※	59,490	49,645	9,845	19.8%	56,000	3,490	6.2%
有利子負債残高	430,979	474,514	△ 43,535	△ 9.2%	438,600	△ 7,620	△ 1.7%
純有利子負債残高	387,693	436,105	△ 48,412	△ 11.1%	416,100	△ 28,406	△ 6.8%
有利子負債残高/ EBITDA※倍率	7.2倍	9.6倍	△ 2.4pt	—	7.8倍	△ 0.6pt	—
純有利子負債残高/ EBITDA※倍率	6.5倍	8.8倍	△ 2.3pt	—	7.4倍	△ 0.9pt	—

<主な増減理由:対2022年度実績>

投資額

前期の大阪府食品流通センターE棟竣工等による減少

純有利子負債残高

増益や物件売却に伴うキャッシュ・フロー改善による減少

<主な増減理由:対2023年10月公表予想>

投資額

投資の期ズレ等による減少

純有利子負債残高

投資の期ズレや増益等による減少

※ 営業利益+受取配当金+減価償却費

セグメントの構成状況（2024年3月末現在）

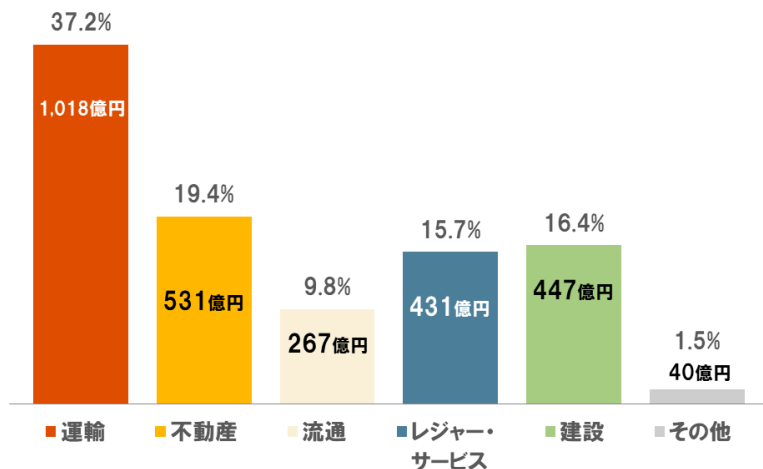
【連結子会社52社・非連結子会社17社・持分法非適用関連会社6社】

増減（対2023年3月末） 連結子会社の減少 2社：（グループ内合併）株式会社大阪府食品流通センター、徳島バス阿南株式会社

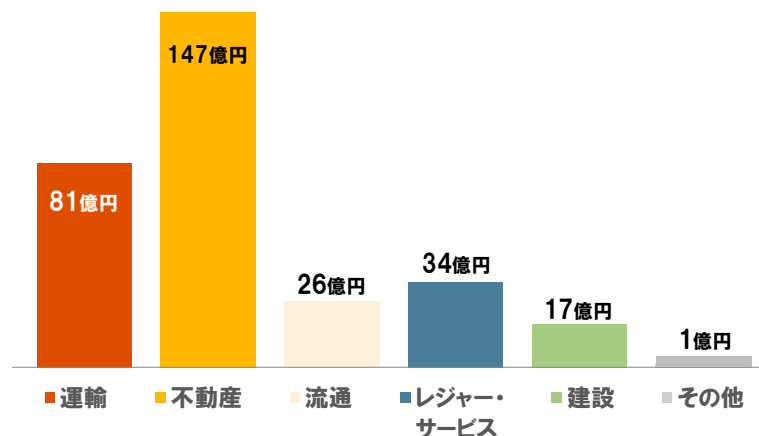


※ 当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

【セグメント別営業収益】



【セグメント別営業利益】

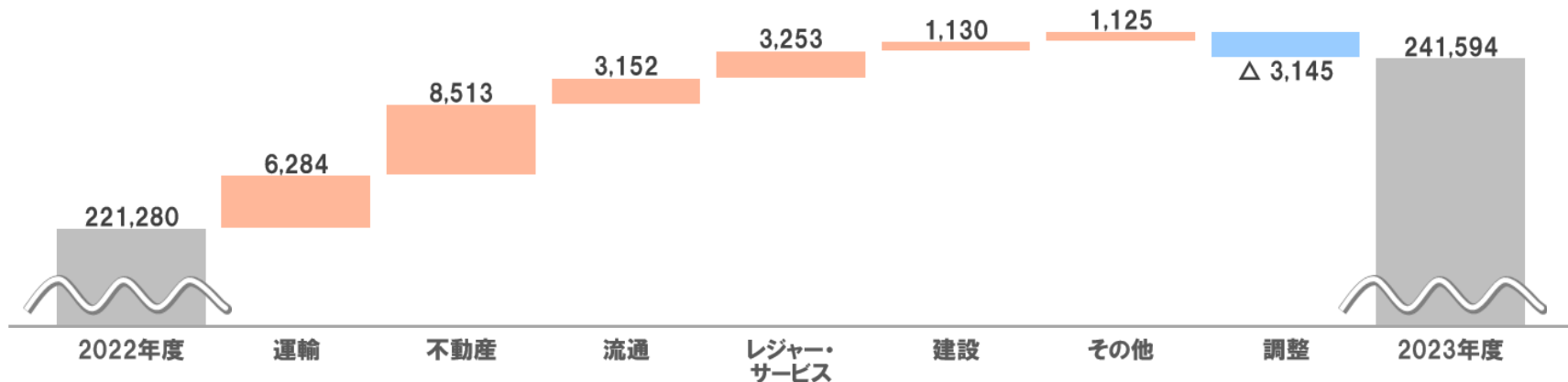


※ 構成比:セグメント間取引を含む営業収益に対する比率

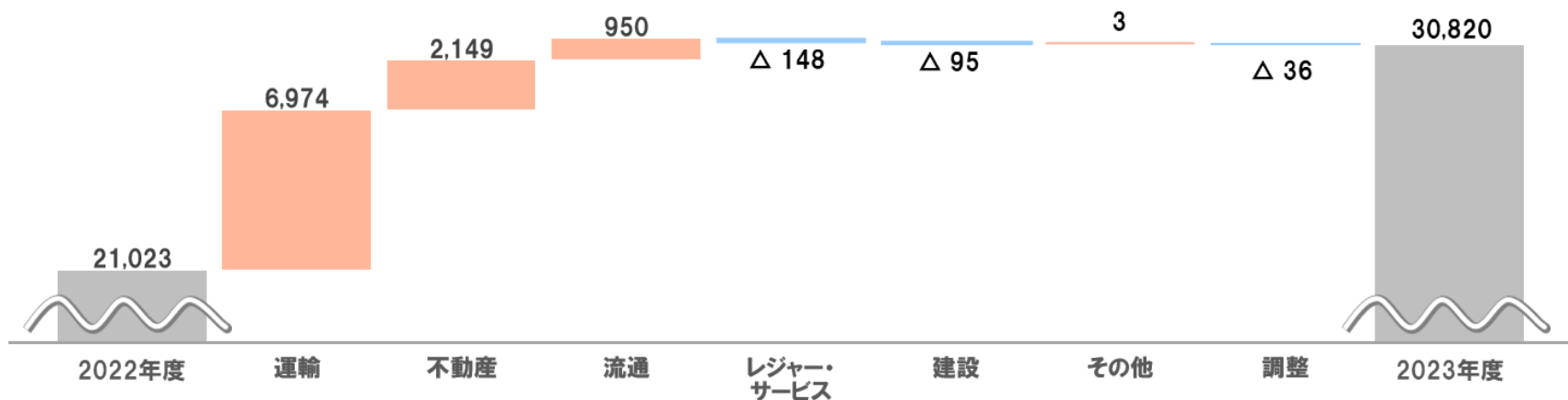
セグメント別営業収益・営業利益（対2022年度実績）

① 営業収益の増減額（対2022年度実績）

（単位：百万円）



② 営業利益の増減額（対2022年度実績）



セグメント別営業収益・営業利益（対2022年度実績）

（単位：百万円）

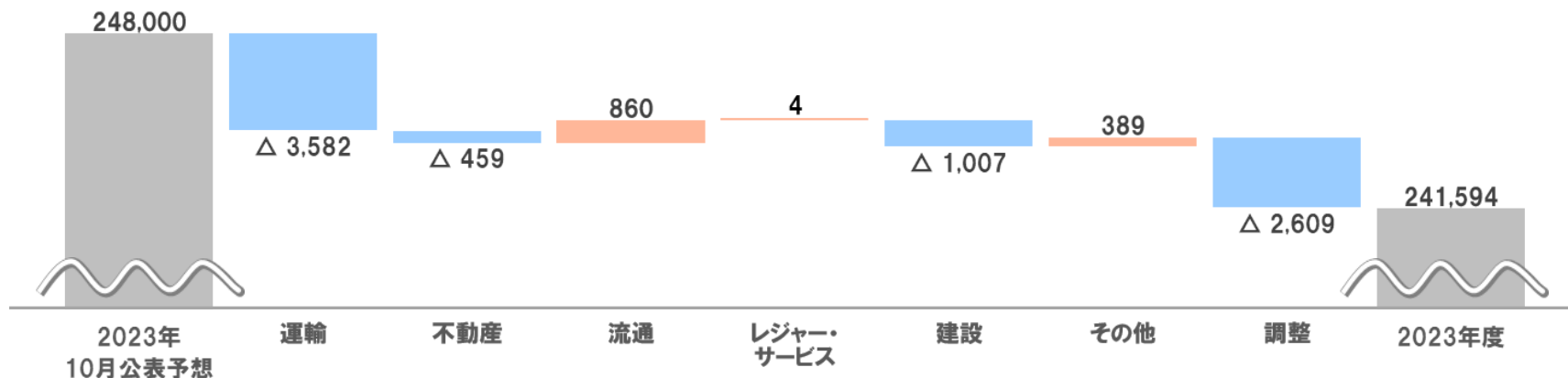
	営業収益				営業利益			
	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
運 輸 業	101,817	95,532	6,284	6.6%	8,126	1,152	6,974	605.3%
不 動 産 業	53,140	44,627	8,513	19.1%	14,720	12,570	2,149	17.1%
流 通 業	26,760	23,607	3,152	13.4%	2,661	1,710	950	55.6%
レジャー・ サービス業	43,104	39,851	3,253	8.2%	3,402	3,550	△ 148	△ 4.2%
建 設 業	44,792	43,662	1,130	2.6%	1,794	1,889	△ 95	△ 5.0%
その他の事業	4,089	2,963	1,125	38.0%	179	175	3	2.0%
調 整 額	△ 32,109	△ 28,964	—	—	△ 62	△ 25	—	—
合 計	241,594	221,280	20,314	9.2%	30,820	21,023	9,797	46.6%

‘なんかいいね’があふれてる

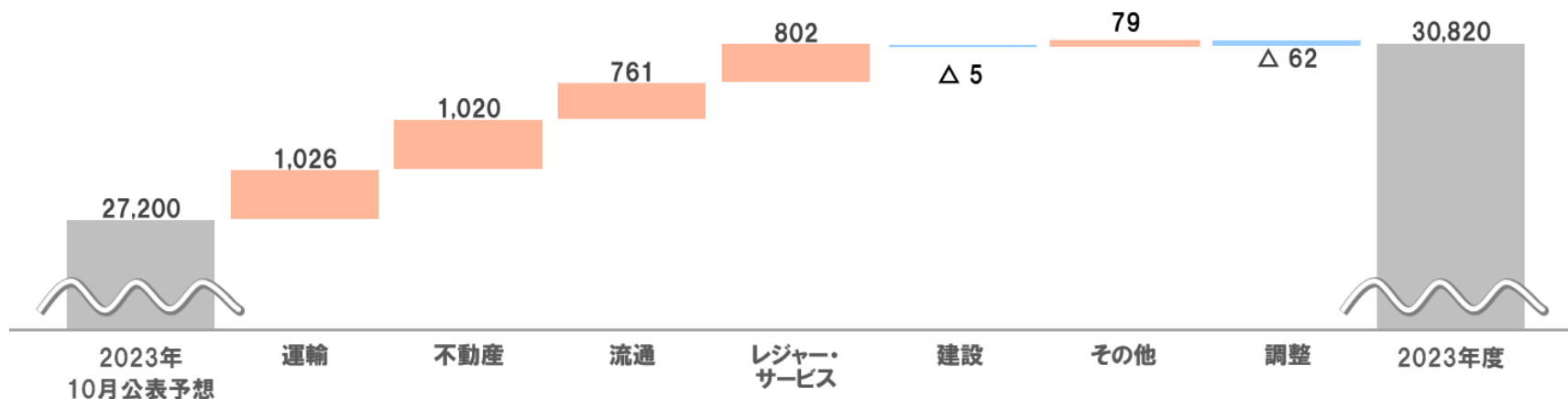
セグメント別営業収益・営業利益（対2023年10月公表予想）

① 営業収益の増減額（対2023年10月公表予想）

（単位：百万円）



② 営業利益の増減額（対2023年10月公表予想）



セグメント別営業収益・営業利益（対2023年10月公表予想）

（単位：百万円）

	営業収益				営業利益			
	2023年度 実績	2023年度 予想 (2023年10月公表)	増減額	増減率	2023年度 実績	2023年度 予想 (2023年10月公表)	増減額	増減率
運 輸 業	101,817	105,400	△ 3,582	△ 3.4%	8,126	7,100	1,026	14.5%
不 動 産 業	53,140	53,600	△ 459	△ 0.9%	14,720	13,700	1,020	7.4%
流 通 業	26,760	25,900	860	3.3%	2,661	1,900	761	40.1%
レジャー・ サービス業	43,104	43,100	4	0.0%	3,402	2,600	802	30.8%
建 設 業	44,792	45,800	△ 1,007	△ 2.2%	1,794	1,800	△ 5	△ 0.3%
その他の事業	4,089	3,700	389	10.5%	179	100	79	79.3%
調 整 額	△ 32,109	△ 29,500	—	—	△ 62	△ 0	—	—
合 計	241,594	248,000	△ 6,405	△ 2.6%	30,820	27,200	3,620	13.3%

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(運輸業)

(単位:百万円)

運輸業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	101,817	95,532	6,284	6.6%
鉄道事業	65,640	56,393	9,246	16.4%
バス事業	23,844	20,262	3,582	17.7%
その他の運輸業	19,546	25,757	△ 6,210	△ 24.1%
調整額(セグメント内)	△ 7,215	△ 6,881	—	—
営業利益	8,126	1,152	6,974	605.3%
主な内訳				
鉄道事業	6,530	1,034	5,495	531.1%
バス事業	2,015	172	1,842	—

<主な増減理由>

・貨物運送業における減収があったものの、鉄道事業やバス事業において前期と比べ輸送人員が増加したこと等により増収増益

鉄道旅客収入及び輸送人員表(個別)

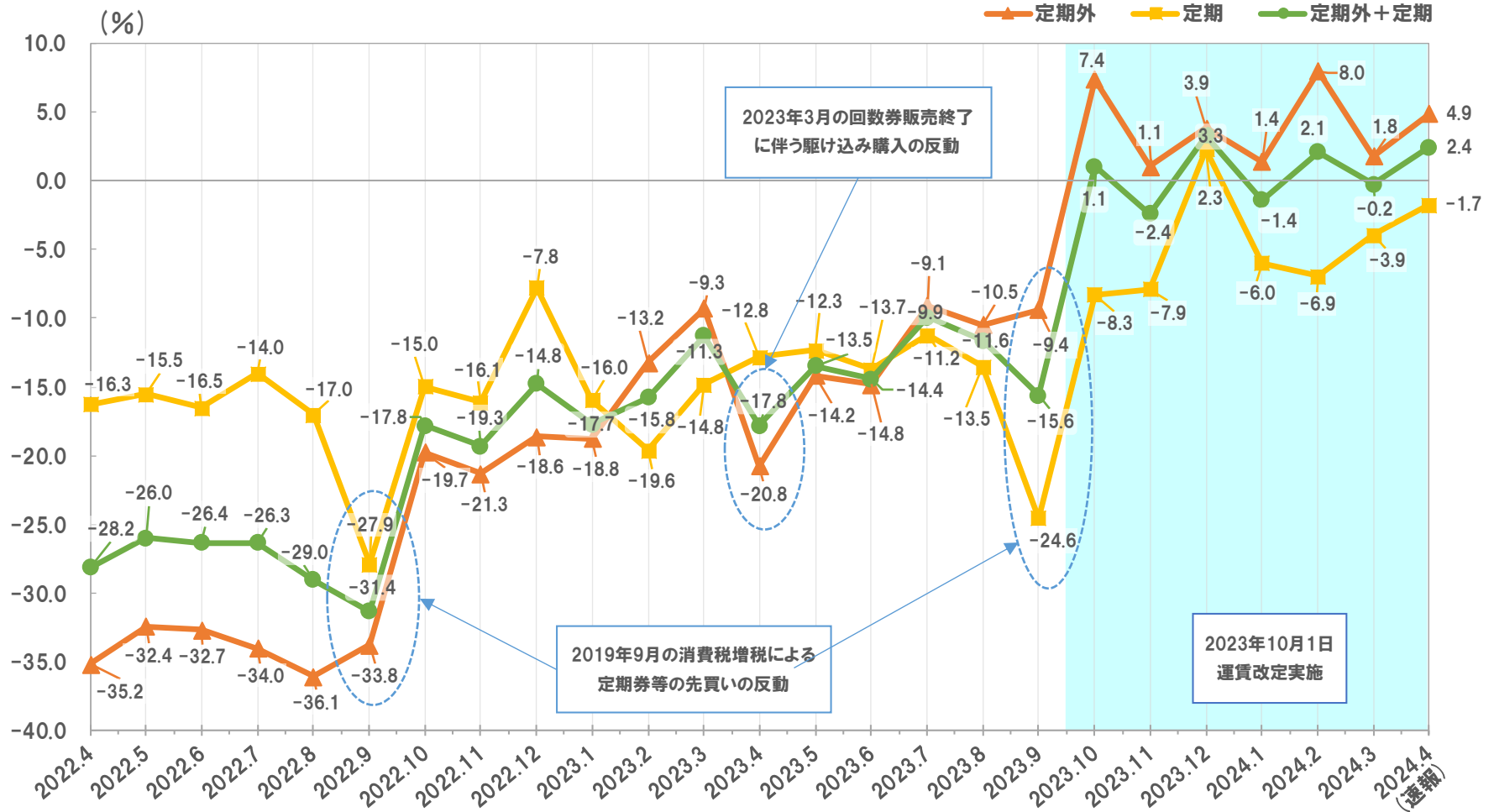
(単位:百万円・千人)

全線			2023年度 実績	2022年度 実績	増減	増減率
旅客収入	定期外		35,140	27,486	7,654	27.8%
	定期		20,415	18,971	1,443	7.6%
	合	計	55,556	46,457	9,098	19.6%
輸送人員	定期外		91,160	82,077	9,083	11.1%
	定期		126,174	121,694	4,480	3.7%
	合	計	217,334	203,771	13,563	6.7%

空港線			2023年度 実績	2022年度 実績	増減	増減率
旅客収入	定期外		9,696	4,953	4,742	95.7%
	定期		1,285	889	395	44.4%
	合	計	10,982	5,843	5,138	87.9%
輸送人員	定期外		11,555	6,494	5,061	77.9%
	定期		4,170	3,020	1,150	38.1%
	合	計	15,725	9,514	6,211	65.3%

セグメント情報(運輸業)

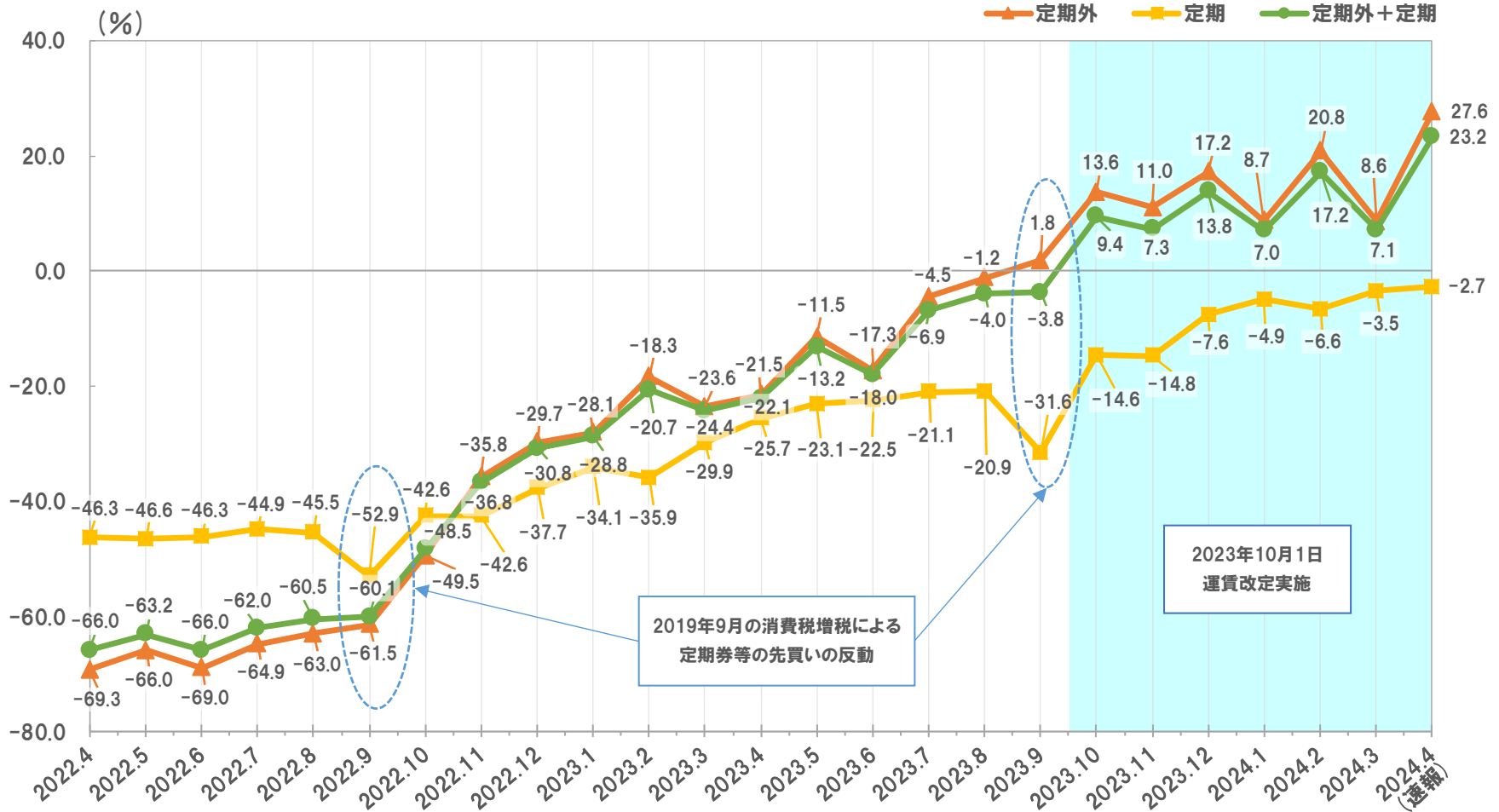
【参考1】(個別－全線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



※ 2021年4月以降は「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(運輸業)

【参考2】(個別-空港線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



※ 2021年4月以降は「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(不動産業)

(単位:百万円)

不動産業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	53,140	44,627	8,513	19.1%
不動産賃貸業	34,710	33,968	741	2.2%
不動産販売業	18,923	10,943	7,979	72.9%
調整額(セグメント内)	△ 492	△ 284	—	—
営業利益	14,720	12,570	2,149	17.1%
主な内訳				
不動産賃貸業	11,600	12,049	△ 449	△ 3.7%
不動産販売業	3,285	699	2,585	369.6%

<主な増減理由>

- ・不動産賃貸業は、入国制限の解除に伴うホテル賃貸料収入の増加等により増収、経費の増加等により減益
- ・不動産販売業は、リート投資法人への物件販売等により増収増益

セグメント情報(流通業)

(単位:百万円)

流通業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	26,760	23,607	3,152	13.4%
ショッピングセンターの経営	14,649	13,981	668	4.8%
駅ビジネス事業	13,681	11,002	2,678	24.3%
その他の流通業	217	386	△ 169	△ 43.8%
調整額(セグメント内)	△ 1,788	△ 1,763	—	—
営業利益	2,661	1,710	950	55.6%
主な内訳				
ショッピングセンターの経営	1,214	1,009	204	20.2%
駅ビジネス事業	1,501	833	668	80.2%

<主な増減理由>

- ・ショッピングセンターの経営は、賃貸料収入が増加したこと等により増収増益
- ・駅ビジネス事業は、ブランド転換を実施したコンビニエンスストアの売上が好調に推移し増収増益

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(レジャー・サービス業)

(単位:百万円)

レジャー・サービス業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	43,104	39,851	3,253	8.2%
ビル管理メンテナンス業	25,776	23,684	2,092	8.8%
その他のレジャー・サービス業	19,439	18,266	1,172	6.4%
調整額(セグメント内)	△ 2,111	△ 2,099	—	—
営業利益	3,402	3,550	△ 148	△ 4.2%
主な内訳 ビル管理メンテナンス業	1,159	1,020	139	13.6%

<主な増減理由>

- ・ビル管理メンテナンス業は、ビルメンテナンス収入の増加等により増収増益
- ・その他のレジャー・サービス業は、旅行需要の回復等により増収となった一方、売上原価の増加等により減益

セグメント情報(建設業 / その他の事業)

(単位:百万円)

建設業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	44,792	43,662	1,130	2.6%
建設業	44,808	43,689	1,118	2.6%
調整額(セグメント内)	△ 15	△ 26	—	—
営業利益	1,794	1,889	△ 95	△ 5.0%

<主な増減理由> 保有物件の販売等により増収、利益率の低下等により減益

(単位:百万円)

その他の事業	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	増減率
営業収益	4,089	2,963	1,125	38.0%
その他の事業	4,130	2,998	1,132	37.8%
調整額(セグメント内)	△ 41	△ 34	—	—
営業利益	179	175	3	2.0%

<主な増減理由> システム収入の増加等により増収増益

‘なんかいいね’があふれてる

営業外・特別損益の状況

(単位:百万円)

	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	摘要
営業外収益	2,461	2,264	197	
受取利息	26	25	1	
受取配当金	1,192	1,003	189	
雑収入	1,242	1,235	6	
営業外費用	3,970	4,322	△ 352	
支払利息	3,300	3,494	△ 193	
雑支出	669	827	△ 158	
特別利益	8,236	3,009	5,226	
固定資産売却益	7,274	548	6,725	当期:リート投資法人への物件売却 他
工事負担金等受入額	800	619	180	
収用補償金	—	805	△ 805	
協力金収入	—	545	△ 545	
その他	162	491	△ 329	
特別損失	3,755	2,600	1,154	
圧縮未決算特別勘定繰入額	1,813	—	1,813	
工事負担金等圧縮額	779	578	201	
固定資産除却損	347	994	△ 647	
減損損失	253	366	△ 113	
その他	561	661	△ 99	

‘なんかいいね’があふれてる

資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

	2023年度末	2022年度末	増減額	主な増減理由												
流動資産	105,354	103,616	1,738	<ul style="list-style-type: none"> ●流動資産 ・現金及び預金の増加 +48億円 ・商品及び製品の減少 △19億円 ・受取手形、売掛金及び契約資産の減少 △8億円 												
固定資産	845,296	831,497	13,798	<ul style="list-style-type: none"> ●固定資産 ・投資有価証券の増加 +159億円 ・建設仮勘定の増加 +61億円 ・建物及び構築物の減少 △104億円 												
資産合計	950,650	935,113	15,537	<ul style="list-style-type: none"> ●負債 												
負債合計	643,548	660,526	△ 16,978	【有利子負債残高】 (単位:億円) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年度末</th> <th>2022年度末</th> <th>増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有利子負債</td> <td>4,309</td> <td>4,745</td> <td>△ 435</td> </tr> <tr> <td>純有利子負債</td> <td>3,876</td> <td>4,361</td> <td>△ 484</td> </tr> </tbody> </table>		2023年度末	2022年度末	増減額	有利子負債	4,309	4,745	△ 435	純有利子負債	3,876	4,361	△ 484
	2023年度末	2022年度末	増減額													
有利子負債	4,309	4,745	△ 435													
純有利子負債	3,876	4,361	△ 484													
純資産	307,102	274,586	32,515	<ul style="list-style-type: none"> ・前受金の増加 +75億円 ・未払法人税等の増加 +59億円 ・繰延税金負債の増加 +50億円 												
負債純資産合計	950,650	935,113	15,537	<ul style="list-style-type: none"> ●純資産 ・親会社株主に帰属する当期純利益 +239億円 ・その他有価証券評価差額金の増加 +92億円 ・剰余金の配当 △28億円 												

‘なんかいいね’があふれてる

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2023年度 実績	2022年度 実績	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	62,223	39,086	23,137	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動によるキャッシュ・フロー ・税金等調整前当期純利益 +144億円 ・棚卸資産の増減 +75億円 ・売上債権の増減 +26億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 10,528	△ 26,305	15,776	<ul style="list-style-type: none"> ● 投資活動によるキャッシュ・フロー ・固定資産の売却による収入 +137億円 ・固定資産の取得による支出 +25億円 ・投資有価証券の取得による支出 △23億円
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 46,832	△ 11,341	△ 35,491	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務活動によるキャッシュ・フロー ・有利子負債増減額 △355億円 ○ 当期 借入金 △335億円 社債 △100億円 ○ 前期 借入金 △179億円 社債 +99億円
現金及び現金 同等物の期末残高	42,402	37,540	4,862	

投資額・EBITDA(セグメント別)

(単位:百万円)

	投資額			EBITDA ※1		
	2023年度実績	2022年度実績	増減額	2023年度実績	2022年度実績	増減額
運 輸 業	16,370	13,781	2,589	23,549	16,469	7,080
不 動 産 業	3,480	11,006	△ 7,525	22,449	20,433	2,016
流 通 業	3,953	1,711	2,242	6,598	5,650	947
レジャー・サービス業	1,903	1,300	603	4,668	4,839	△ 171
建 設 業	35	69	△ 33	1,861	2,013	△ 151
その他の事業	42	3	38	189	187	2
調 整 額	—	—	—	※2 173	※2 51	122
合 計	25,787	27,872	△ 2,085	59,490	49,645	9,845

※1 営業利益+受取配当金+減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

II. 2024年度 業績予想

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2024年度 予想	2023年度 実績	増減額	主な増減要因
営業収益	259,100	241,594	17,505	<ul style="list-style-type: none"> ●営業収益 不動産業の物件販売収入が減少するものの、運輸業で旅客需要の回復や運賃改定効果が寄与するほか、建設業の完成工事高増加により増収 ●営業利益 運輸業を中心とした収支改善により増益 ●親会社株主に帰属する当期純利益 前期の固定資産売却益の反動により減益 ●投資額 収益拡大投資の増加 ●有利子負債残高 投資額の増加による増加
営業利益	31,000	30,820	179	
経常利益	28,700	29,312	△ 612	
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,900	23,926	△ 6,026	
投資額	77,300	25,787	51,512	
減価償却費	28,600	27,477	1,122	
E B I T D A ※	60,800	59,490	1,309	
有利子負債残高	442,800	430,979	11,820	
純有利子負債残高	419,700	387,693	32,006	
有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	7.3倍	7.2倍	0.1pt	
純有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	6.9倍	6.5倍	0.4pt	

‘なんかいね’があふれてる

※ 営業利益+受取配当金+減価償却費

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2024年度 予想	2023年度 実績	増減額	主な増減要因
運 輸 業	営業収益	111,600	101,817	9,782	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業 +68億円(当社 運賃改定効果+32億円) うち、空港線収入 +27億円 ・バス事業 +2億円 ・貨物運送業 +18億円
	営業利益	11,400	8,126	3,273	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業 +28億円 ・バス事業 +1億円 ・貨物運送業 +4億円
不 動 産 業	営業収益	49,000	53,140	△ 4,140	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産賃貸業 △4億円 ・不動産販売業 △41億円
	営業利益	11,800	14,720	△ 2,920	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産賃貸業 △4億円 ・不動産販売業 △25億円
流 通 業	営業収益	27,500	26,760	739	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンターの経営 +2億円 ・駅ビジネス +5億円
	営業利益	2,700	2,661	38	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンターの経営 △1億円 ・駅ビジネス +1億円

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2024年度 予想	2023年度 実績	増減額	主な増減要因
レジャー・ サービス業	営業収益	43,800	43,104	695	・ビル管理メンテナンス業 +10億円 ・その他 △5億円(ポートレース施設賃貸業他)
	営業利益	3,200	3,402	△ 202	・ビル管理メンテナンス業 +1億円 ・その他 △3億円(ポートレース施設賃貸業他)
建設業	営業収益	52,200	44,792	7,407	完成工事高の増
	営業利益	2,100	1,794	305	増収による増益
その他の 業	営業収益	2,600	4,089	△ 1,489	
	営業利益	100	179	△ 79	
調整額	営業収益	△ 27,600	△ 32,109	—	
	営業利益	△ 300	△ 62	—	
合計	営業収益	259,100	241,594	17,505	
	営業利益	31,000	30,820	179	

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額				EBITDA ^{※1}		
	2024年度 予想	2023年度 実績	増減額	予想額 主な内訳	2024年度 予想	2023年度 実績	増減額
運 輸 業	29,500	16,370	13,129	<収益拡大投資 399億円> ・収益用不動産取得等 200億円 ・北大阪トラックターミナルII期棟 135億円 <安全・更新投資 319億円> ・鉄道関連工事 170億円 車両新造、高架橋補強等 ・不動産及び流通施設工事 48億円 <未来探索投資 70億円> ・ツーリズム関連投資 18億円	27,900	23,549	4,350
不 動 産 業	40,300	3,480	36,819		19,400	22,449	△ 3,049
流 通 業	2,600	3,953	△ 1,353		6,800	6,598	201
レジャー・ サービス業	6,300	1,903	4,396		4,500	4,668	△ 168
建 設 業	200	35	164		2,200	1,861	338
その他の事業	0	42	△ 42		100	189	△ 89
調 整 額	△ 1,600	—	—		※2 △ 100	※2 173	—
合 計	77,300	25,787	51,512	60,800	59,490	1,309	

※1 営業利益＋受取配当金＋減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

【当社鉄道線 業績予想の前提条件】

インバウンド需要の増加や国内の移動需要について回復を見込むことに加え、
2023年10月に実施した運賃改定の通期寄与もあり定期外、定期ともに増収を見込む。

(単位:百万円・千人)

全線			2024年度 予想	対前期 増減率	2023年度 実績	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率
旅客 収入	定期外		39,562	12.6%	35,140	27.8%	27,486	33.8%
	定期		22,383	9.6%	20,415	7.6%	18,971	2.6%
	合計		61,946	11.5%	55,556	19.6%	46,457	19.0%
輸送 人員	定期外		96,345	5.7%	91,160	11.1%	82,077	24.4%
	定期		126,896	0.6%	126,174	3.7%	121,694	4.1%
	合計		223,241	2.7%	217,334	6.7%	203,771	11.4%

空港線			2024年度 予想	対前期 増減率	2023年度 実績	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率
旅客 収入	定期外		12,148	25.3%	9,696	95.7%	4,953	124.8%
	定期		1,526	18.8%	1,285	44.4%	889	14.0%
	合計		13,674	24.5%	10,982	87.9%	5,843	95.8%
輸送 人員	定期外		14,114	22.1%	11,555	77.9%	6,494	103.3%
	定期		4,620	10.8%	4,170	38.1%	3,020	14.8%
	合計		18,734	19.1%	15,725	65.3%	9,514	63.3%

‘なんかいいね’があふれてる

【参考】セグメント別営業収益・営業利益（対2019年度実績）

（単位：百万円）

		2024年度 予想	2019年度 実績	増減額
運 輸 業	営業収益	111,600	100,980	10,619
	営業利益	11,400	12,953	△ 1,553
不 動 産 業	営業収益	49,000	43,486	5,513
	営業利益	11,800	13,832	△ 2,032
流 通 業	営業収益	27,500	32,348	△ 4,848
	営業利益	2,700	3,835	△ 1,135
レ ジ ャ ー ・ サ ー ビ ス 業	営業収益	43,800	42,981	818
	営業利益	3,200	2,762	437
建 設 業	営業収益	52,200	41,111	11,088
	営業利益	2,100	2,304	△ 204
そ の 他 の 事 業	営業収益	2,600	3,503	△ 903
	営業利益	100	212	△ 112
調 整 額	営業収益	△ 27,600	△ 36,396	—
	営業利益	△ 300	△ 677	—
合 計	営業収益	259,100	228,015	31,084
	営業利益	31,000	35,223	△ 4,223

‘なんかいね’があふれてる

III. 中期経営計画「共創140計画」の 進捗状況

経営環境の認識

- インバウンドの好調や運賃改定効果により運輸業を中心にアップサイドを見込む
- 一方、コスト面を中心にリスクも徐々に顕在化

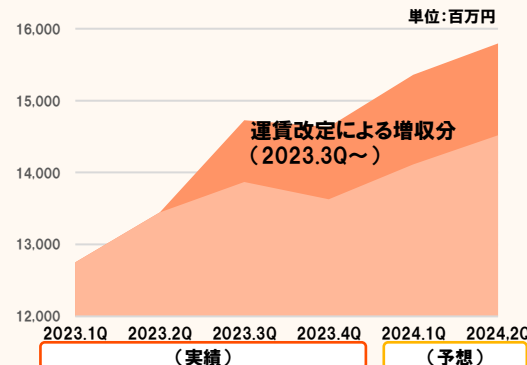
- インバウンドの好調
- 運賃改定などによる増収効果

インバウンドで賑わう関西空港駅の様子

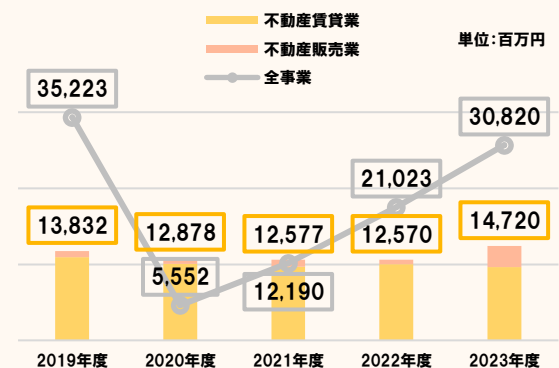


- コロナ禍からの回復基調
- 不動産ビジネスの高い安定性と成長期待

当社鉄道線(全線)
運輸収入の推移および運賃改定が及ぼす効果



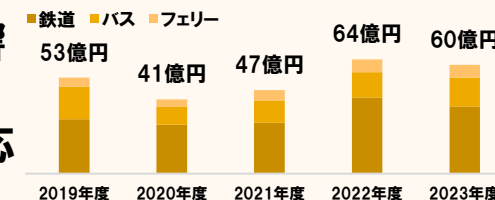
不動産業および全事業の営業利益推移



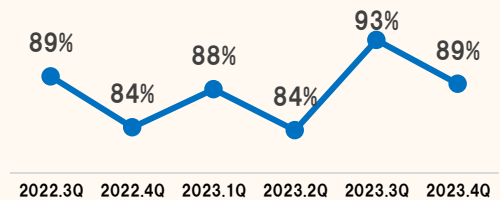
機会

- 物価高に伴うコスト負担
- 金利上昇や工事費高騰による影響
- 事業運営に必要な人財の確保
- 中長期的な沿線人口減少への対応

運輸業
エネルギーコスト(動力費・燃料費)の推移



当社鉄道線(全線) 定期 輸送人員
コロナ前(2019年同月)からの増減率推移



リスク

機会を逃さずアップサイドを享受しつつ、リスク面にも適切に対応し、
今中計のテーマ「成長への基礎構築」を完遂させる

中期経営計画「共創140計画」の位置づけ

基本方針

コロナ禍を経ての「再構築」と「成長への基礎構築」を行う期間

1. あらゆるステークホルダーとの“**共創の精神**”は不変
2. なにわ筋線開業に向けたコア事業の戦略投資を確実に実行
3. 未来に向けての成長の基礎を3年間で構築
 - ・「安全・更新」投資は、3年間で加速させ確実に実行
 - ・「南海グループ経営ビジョン2027」での2つの事業戦略の実行を加速
 - ・新たな事業の芽の育成にも十分な投資枠を確保

経営戦略

1. 公共交通事業のサステナブルな経営
2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大
3. 未来への取組み(未来探索)
4. 上記を支える、人事/財務戦略推進

2050年

南海の未来
(企業像)

なにわ筋線
開業

南海グループ
経営ビジョン
2027

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

深展133計画
(2015～2017年度)

共創136計画
(2018～2020年度)

2021年度
経営計画

共創140計画
(2022～2024年度)

次期中期
経営計画

‘なんかいね’があふれてる

「共創140計画」の主な事業戦略

1. 公共交通事業の持続可能な経営



- ・ 安全対策・災害対策の計画的な推進
- ・ デジタルテクノロジー活用：新しい技術・枠組みの構築と予防保全の充実
- ・ 収益力の強化、ブランド・サービスの向上
- ・ 新たなサービス - 総合モビリティ事業への進化

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大



- ・ 地域共創型まちづくり
- ・ “グレーターなんば”構想の加速 - “アジアのなんば”へ
- ・ 泉北ニュータウンの持続可能なまちづくり
- ・ 物流施設の高度化
- ・ 私募リート設立

3. 未来探索



- ・ DX戦略 - デジタル顧客接点の構築と新価値創造
- ・ 新規事業への取組み加速
- ・ 外国人との共生
- ・ ツーリズム関連事業の強化
- ・ ニューノーマルでの新たなサービス提供

「共創140計画」数値目標の進捗状況

- 営業利益、純有利子負債残高/EBITDA倍率は、数値目標を1年前倒しで達成
- 設備投資は当初計画1,600億円に届かないが、成長への基礎構築を着実に進める

	2024年度 共創140計画
営業利益 ^{※1}	280 億円
純有利子負債残高	4,339 億円
純有利子負債残高/EBITDA ^{※2} 倍率	7.5 倍

	共創140計画 3か年総額
設備投資総額 ^{※3}	1,600 億円
未来探索	150 億円
収益拡大	712 億円
安全・更新	738 億円

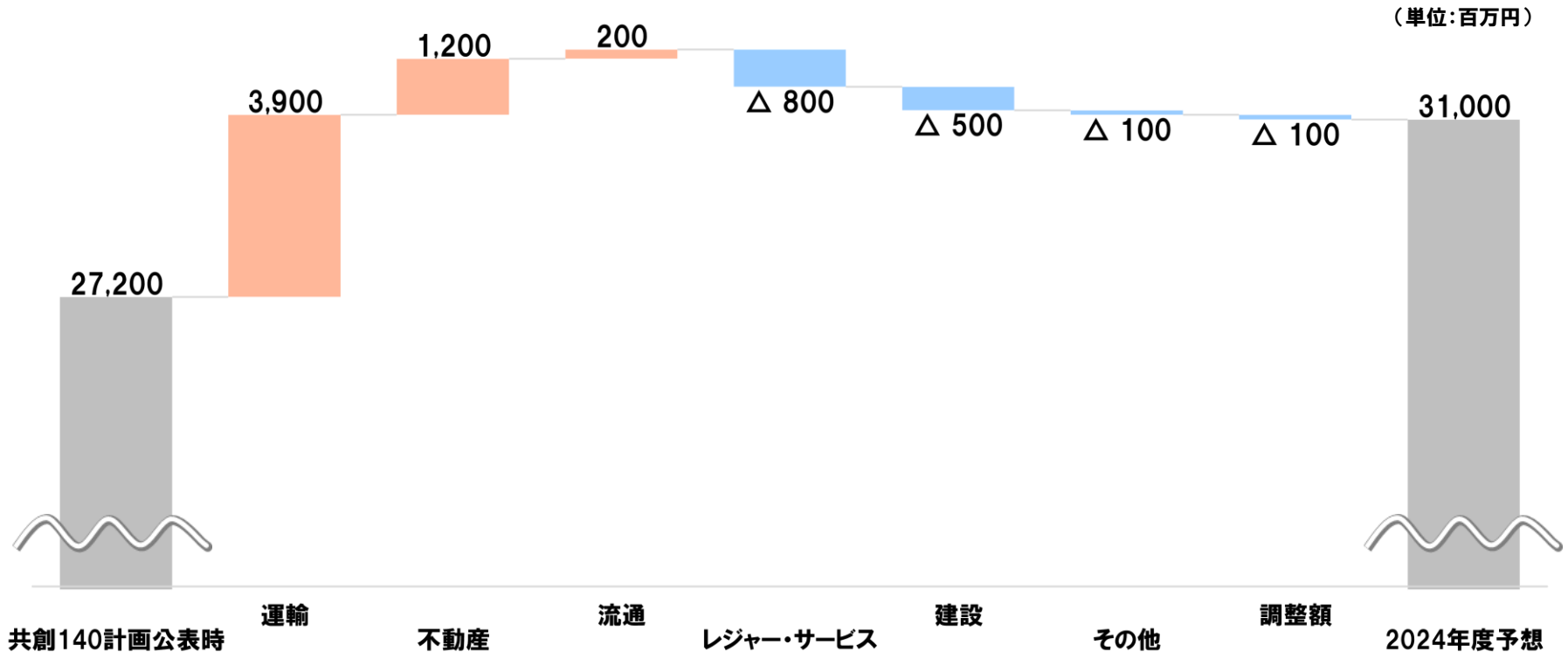
2023年度 実績	2024年度 予想
320 億円	322 億円
3,876 億円	4,197 億円
6.5 倍	6.9 倍

予想 3か年総額	計画比
1,387 億円	△ 212 億円
80 億円	△ 69 億円
533 億円	△ 178 億円
773 億円	35 億円

「共創140計画」数値目標の進捗状況(営業利益の推移)

- 運輸業において、インバウンド需要の想定以上の回復、運賃改定の実施などによりコスト高の影響を吸収し、40億円弱の利益上積みを見込む
- 一方でeスポーツを含む未来探索のマネタイズが課題

2024年度営業利益の増減額(共創140計画公表時からの推移)



共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

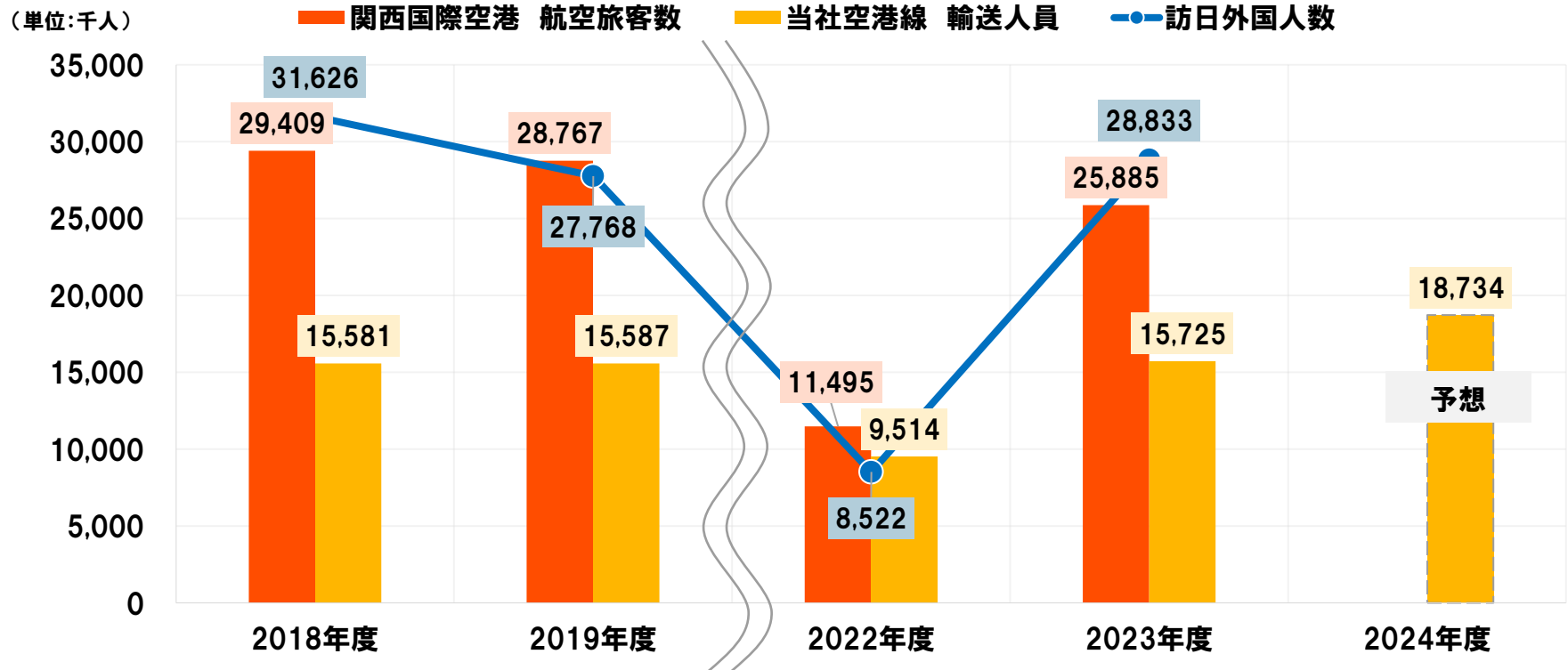
① 公共交通事業の持続可能な経営

戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p59～64参照	2024年度
1 安全対策・災害対策 の計画的な推進	連続立体交差事業(高石市内、堺市内)/車両内防犯カメラ設置/山岳区間における斜面防災対策 高架橋・駅施設等の耐震補強工事/バリアフリー化推進ほか	TCFDを考慮した投資計画の立案・実行 車両内防犯カメラ設置:2028年度末までに全車両での運用開始をめざす (2024年度末までに1/3の車両に設置完了予定) 【中百舌鳥駅ホームドア】4番線運用開始(2024.3)→3番線設置(2024年度末予定) ・高師浜線 全線高架化(2024.4)	
2 デジタルテクノロジー 活用	ワンマン運転の拡充検討(2024年度目標:南海本線一部区間への拡大) 自動運転の実証試験準備 ハード面の整備/システムに係る検討・安全性評価	試験車両を用いた自動運転実証試験(2023.8～) →第三者委員会による検討・評価 ・駅総合案内センター開設(2023.6)	AIを用いた踏切異常検知システムの 導入試験開始(2024.3～)
3 収益力の強化、 ブランド・サービスの 向上	車両更新/駅施設・駅トイレの美装化/大阪・関西万博を見据えたプロモーション推進 Visaのタッチ 決済実証実験	・タッチ決済サービスを継続、カードブランド拡大や利用駅の拡大など利便性向上施策を推進 ・QRコードを用いた「デジタルきっぷ」の継続的な提供および他社との連携強化 中百舌鳥駅リニューアル:2023.12完了 商業区画再編(N.KLASS中百舌鳥開業)、コンコース美装化 ・運賃改定(2023.10)	周年イヤーを契機とした誘客施策実施 (関空開港30周年、高野山世界遺産登録20周年) ・加太さかな線 めでたいでんしゃ 5編成目運行開始(2024.7予定)
4 新たなサービス	陸海空の輸送手段検討/MaaSの取組み推進	総合モビリティ事業の推進 「KANSAI MaaS アプリ」リリース(2023.9) → 機能拡充 ・オンデマンドバス実証実験@泉北エリア (1回目:2023.1～2023.3)	・オンデマンドバス実証実験@泉北エリア (2回目:2023.10～2024.1) ・オンデマンドバス実証実験@泉北エリア(3回目) ・貨客混載、グリーンスローモビリティ導入検討

「なんかいね」があふれてる

当社空港線を取り巻く状況

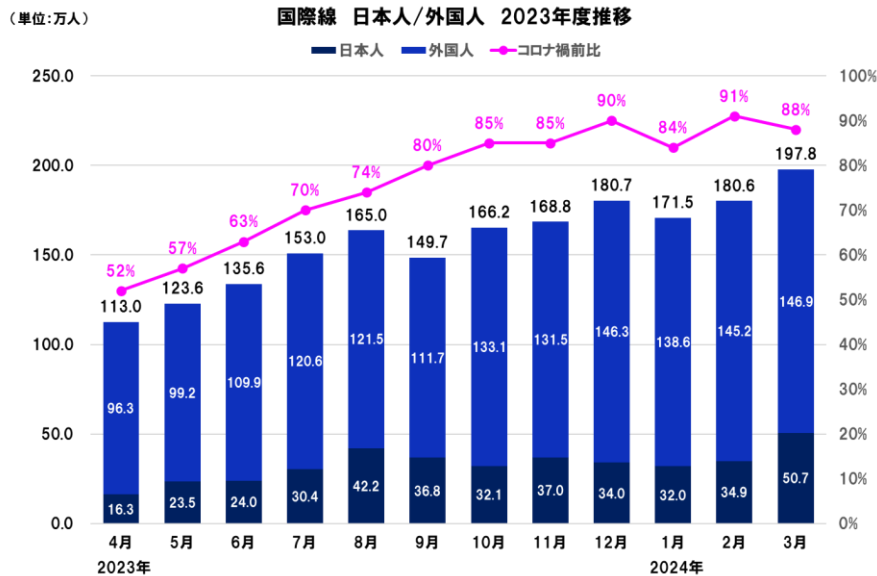
- インバウンド需要が好調に推移し、当社空港線は2023年度下半期よりコロナ禍前の水準を超える
- 中国からの戻りは鈍い一方、韓国、東南アジア、台湾、香港などが牽引
- 特急ラピートの乗車率もコロナ禍前を上回る7割弱の水準で推移



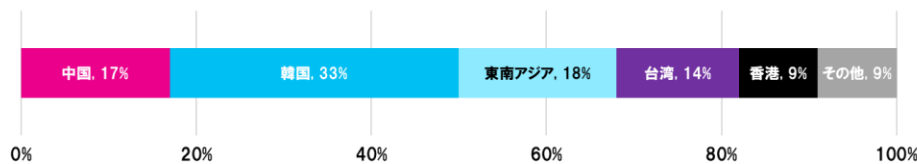
【参考】関西国際空港の動向・今後の見通し

※出典：関西エアポート株式会社

- 外国人旅客数はコロナ禍前を超え、2024年夏期スケジュールの国際定期便は2019年比約9割の水準まで回復
- 国際線需要の拡大を見据え、第1ターミナルビルを改修し、国際線のキャパシティを拡大



国際線 外国人国籍・地域別内訳 2023年12月



グラフ出典：関西エアポート利用状況
出入国在留管理庁

Terminal 1 リノベーション 全体概要

- 2025年春のグランドオープンを目指し、ターミナルビルの改修工事を推進中
- 関西国際空港全体で約4,000万人の国際線キャパシティを創出

※ 2018年度：国際線旅客 約2,300万人

【基本コンセプト】

- 国際線キャパシティ拡大
- エアサイドエリアの充実
- 旅客体験の向上
 - 国際線/国内線エリア配置の見直し
 - 国際諸施設の中央集約化 など



画像提供：関西エアポート株式会社

運輸業における誘客施策(空港線)

- 空港線開業30周年を契機に、今後も国内外から選ばれる路線へと飛躍
- 当社のシンボルでもある「特急ラピート」を基軸とした利用促進施策を展開



◆空港線利用の拡大

- ラピートのコラボラッピングを続々と実施
 - スイスの姉妹鉄道「モントルー・オーベルラン・ベルノワ鉄道」とのコラボラッピング
 - セレッソ大阪クラブ設立30周年コラボの記念ラッピング
 - 大阪・関西万博デザインシステム「Umi」にラッピング



- 海外プロモーション活動を強化
 - 韓国・台湾の空港輸送を担う事業者との関係強化
 - 現地旅行会社へのセールス積極化
 - 米国やフィリピンの現地旅行博に出展
- タッチ決済、QR乗車券の活用を推進
 - タッチ決済ブランド、利用可能駅を順次拡大
 - QR乗車券の活用は利便性向上、混雑緩和にも貢献



国内外の旅客需要を着実に取り込み、
成長ドライバーである空港線をさらに伸長させる

運輸業における誘客施策(高野山・加太エリア)

- 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録20周年、観光列車「天空」運行開始15周年を契機に高野山エリアへの観光需要を創出
- 「加太さかな線プロジェクト」も10周年を迎え、加太エリアのさらなる魅力向上に注力



◆高野山・高野山麓エリアへの誘客

- 定番の高野山観光に加え、寺社・仏閣における特別体験や飲食特典を実施する「ふれたい、高野山。2024」を開催



- 国内の旅行エージェントを活用し、「天空」を貸し切った募集型企画旅行ツアーを造成
- 土休日ダイヤにおいて「特急こうや」を増発
- 観光列車「こうや花鉄道 天空」の15周年を記念したイベントを予定



◆加太エリアへの誘客

- 観光列車「めでたいでんしゃ」の5編成目の運行を2024年7月より開始
- これまでの「めでたいでんしゃ」も活用し、各種イベントを企画



和歌山エリアへの誘客をトリガーとして
運賃単価の増加と収益力の向上をめざす

運輸業における増収施策(運賃改定)

- 昨年10月に実施した鉄道の運賃改定による逸走の影響はほとんどなく、業績寄与はおおむね想定通り
- 2024年度以降、バス事業も含めて本格的な業績押上げ効果を見込む

事業	会社	改定・値上げ内容	実施時期	2023年度 効果額	2024年度 効果額 (見込)
鉄道	南海電気鉄道 泉北高速鉄道	平均改定率10.0% 初乗り運賃 160円→180円 ※南海電気鉄道	2023年10月	約20億円	約52億円
	南海電気鉄道	インバウンド向け企画乗車券 割引率、商品体系の見直し	〃	約1億円	約2億円
バス/ フェリー	南海バス	路線バス:平均6.9%の値上げ (近畿運輸局に申請中)	2024年7月(予定)	約1億円	約8億円
	関西空港交通	リムジンバス路線の一部で運賃値上げ	2024年3月		
	徳島バス	高速バス:200円~500円の運賃値上げ	2023年10月		
	南海りんかんバス	路線バス:平均19.6%の値上げ	〃		
	熊野御坊南海バス	路線バス:那智山線一部区間の運賃値上げ	〃		
	南海フェリー	運賃値上げ 大人片道2,200円→2,500円	〃		
合計				約23億円	約63億円

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

② 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

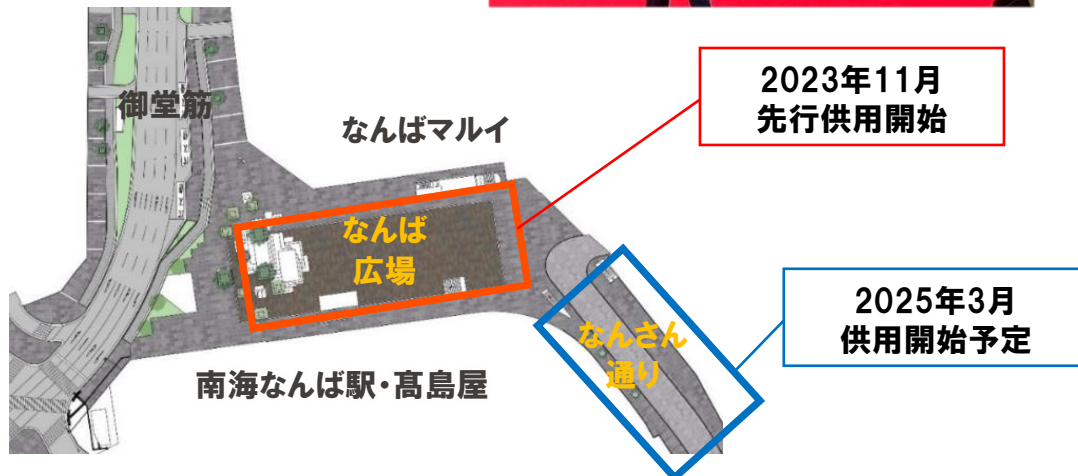
戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p59～64参照	2024年度
1 地域共創型まちづくり		沿線の社会課題の解決/エリアブランディング → 定住人口・関係人口・交流人口の増加をめざす <ul style="list-style-type: none"> 自治体と連携した住環境の魅力発信および転入特典を実施する「まちの参観日」 子育て世代にとって「子育てするのが楽しいまち」を築き上げていくプロジェクト「家族にえがお+1」 南海沿線の子育て・お出かけ情報など暮らしのお役立ち情報が満載のWebメディア「なんかいくらし」 公募で集まったクリエイターと当社がタッグを組み、南海沿線にくらし魅力を発信する「南海電鉄地域発見クリエイターズ課」 沿線企業の採用支援やオープンファクトリー支援に取り組む「#BIZ TAG NANKAI(沿線企業魅力共創プロジェクト)」 	
2 “グレーターなんば” 構想の加速		物件取得/所有物件の開発/既存物件の刷新 【なんば駅周辺における空間再編推進事業】 なんば駅前広場整備(2023.11 先行供用開始)→なんば駅前広場～なんさん南北通り整備(2025.3 完成予定) ・なんばパークス サウス グランドオープン (2023.7) 【難波千日前オフィスビル開発】 「ANAスカイコネクトなんば」2023.10着工 → 2025年春 開業予定 ・シェアスタイル型 賃貸マンション 「サザンクレスト なんば南」入居開始(2023.11) 【なんばパークス】 パークスガーデンリニューアル 第1期:2023.11、第2期:2024.4 なんばパークスミュージアム:2024.4開業	
3 泉北ニュータウンの サステナブルなまちづくり		【泉ヶ丘駅前活性化計画】 既存物件の一部解体(2023.7完了)	【泉ヶ丘駅前活性化計画】 新築工事延期、事業計画見直し 泉北ニュータウンスマートシティ戦略推進
4 物流施設の高度化	大阪府食品流通センターE棟 高度化工事(2023.4 開業)	北大阪流通センターII期棟 高度化工事 (2025年度末 竣工予定)	東大阪流通センター 高度化計画策定
5 私募リート設立	・AM会社設立 (2022.10)	・投資法人設立 (2023.7)	「南海プライベートリート投資法人」 物件組入、運用開始(2023.11～)

‘なんかいいいね’があふれてる

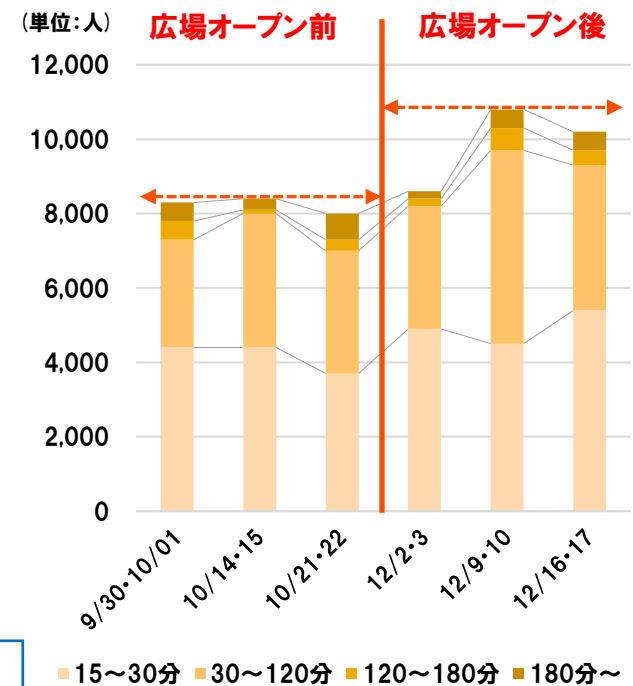
グレーターなんば:なんば広場

- 2023年11月に先行供用開始、持続的な運営手法確立のため、社会実験にて検証中
- 開業後、広場への来訪者数、滞在時間が増加傾向

※「なんば広場」：社会実験中の仮称



なんば広場開業後の来訪者数、滞在時間の変化※
(通常の週末で測定)



1回の週末(土日)あたり
 ・滞在人数が約1,600名増加
 ・うち過半数が30分以上の滞在

グレーターなんば：まちづくりの高度化に向けた取り組み

- エリアとしての魅力とポテンシャルをハード(不動産開発)、ソフト(心を満たすエンタメづくり)の両面で高める戦略打ち手を実行

ハード面

オフィスビルの開発：ANAスカイコネクとなんば

- なんば広場南側、なんさん通り沿いに建設中の(仮称)難波千日前オフィスビルをANAファシリティーズ株式会社へマスターリースし、「ANAスカイコネクとなんば」として2025年春に開業

コンセプト

“空と地上、過去と未来、
地域と日本全国や世界を「つなぐ」ビル”

- ◆ ANAファシリティーズにおける顧客とのつながりや専門性を活かした新たなオフィス展開に挑戦し、長年培ったノウハウを活かしたまち全体の賑わいを創出するテナントを誘致
- ◆ チャレンジ企業・スタートアップ企業が事業を拡大し世界に羽ばたく企業になって欲しいという想いを込めたコンセプトスペース「ANA WORK CABIN(仮称)」を展開
- ◆ オフィスフロアには約60坪/階のコンパクトなオフィス空間を設け、なんばエリアで供給が続く大規模・中規模以外のオフィスポートフォリオを拡充



開業後のなんさん通りイメージ



ANA WORK CABIN(仮称)イメージ

画像提供：ANAファシリティーズ株式会社

ソフト面

なんば広場での社会実験実施

- 「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会」のメンバーとして、大阪市と共同で社会実験を実施中
- なんば広場を拠点に、エリアでの回遊を促進するための各種イベントを誘致



カウントダウンパーティの様子
(2023年12月31日)

ワーカーへのサポート：NANKAI NAMBA WORKERS

- なんばエリアで当社が管理するオフィスビルや商業施設で働く約1.5万人にワーカー限定特典やイベントをアプリと連携して提供



なんばまるっとアプリ

‘なんかいね’があふれてる

物流施設の高度化：施設の概要

- 「好立地・高稼働・広大な敷地」が強みの物流ターミナルを2施設保有
- 関西の物流施設のマーケット動向は堅調に推移し、今後への期待が高い

北大阪/東大阪流通センターの強み

- 高速ICに近接し、内陸部に立地
大阪都心部へのアクセスも良好で
輸送効率に優れる
- 物流専用エリアに位置し、
通年24時間稼働が可能
- 広い敷地を有し、効率性に優れた
大型物流施設の整備が可能



北大阪流通センター

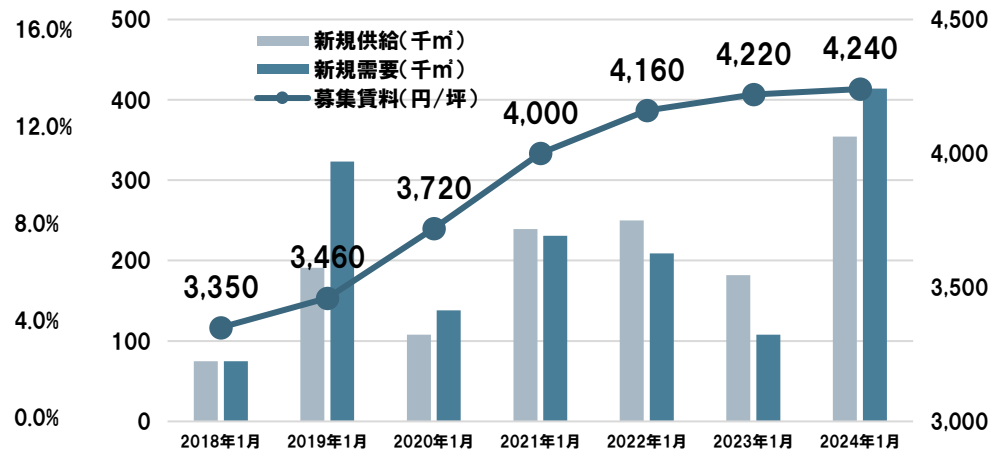
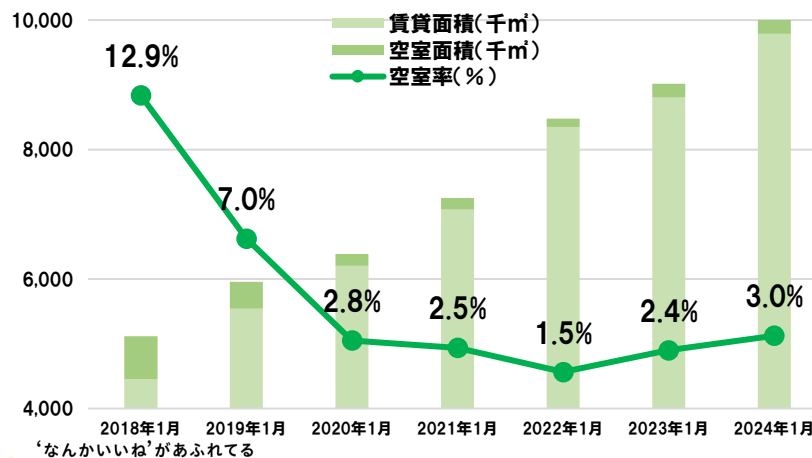
敷地面積：約326,000㎡
 賃貸面積：約329,000㎡
 稼働率：トラックターミナル 99.4%
 流通倉庫 100%
 （大阪府食品流通センターを含む）

東大阪流通センター

敷地面積：約213,000㎡
 賃貸面積：約122,000㎡
 稼働率：トラックターミナル 100%
 流通倉庫 100%

※2023年度末時点の情報

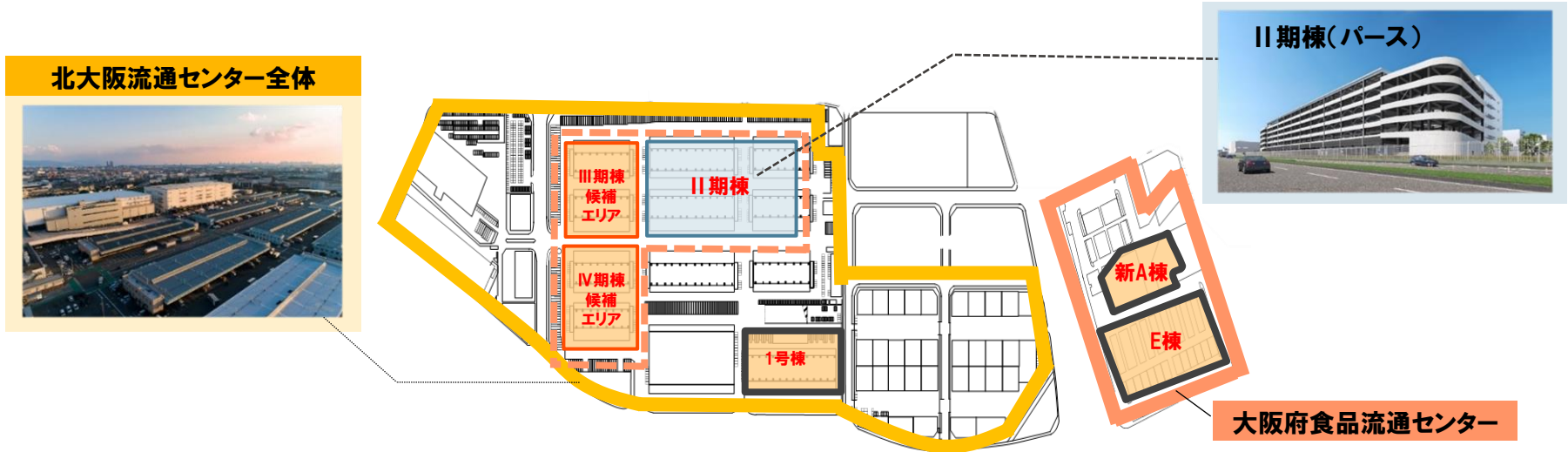
【関西圏における物流施設のマーケット動向】



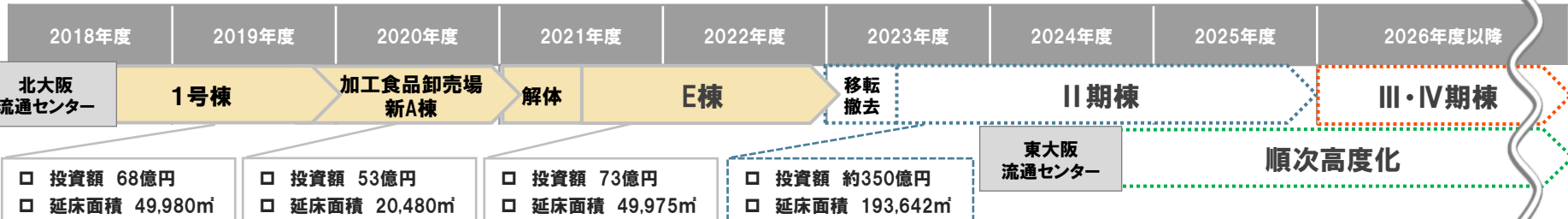
出典：株式会社一五不動産情報サービス 調査レポートより弊社作成

物流施設の高度化：現在地と今後の見通し

- 北大阪流通センター最大規模のII期棟高度化は順調に進行中
- II期棟完成後、III期棟・IV期棟の高度化に着手予定
- 長らく事業化が進められなかった東大阪流通センターの高度化も計画策定に着手



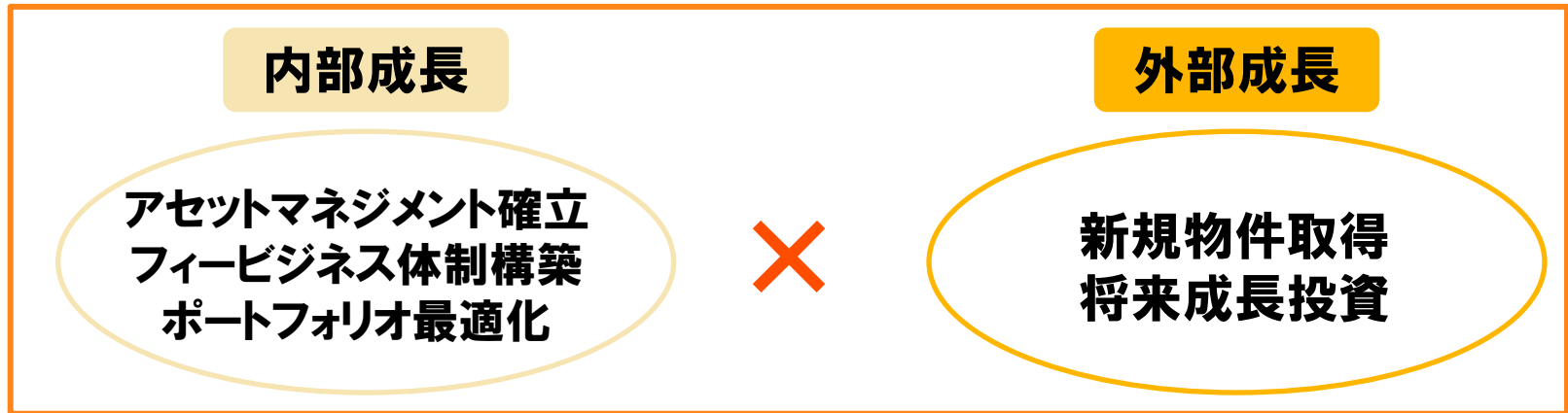
全体スケジュール ※現時点の計画



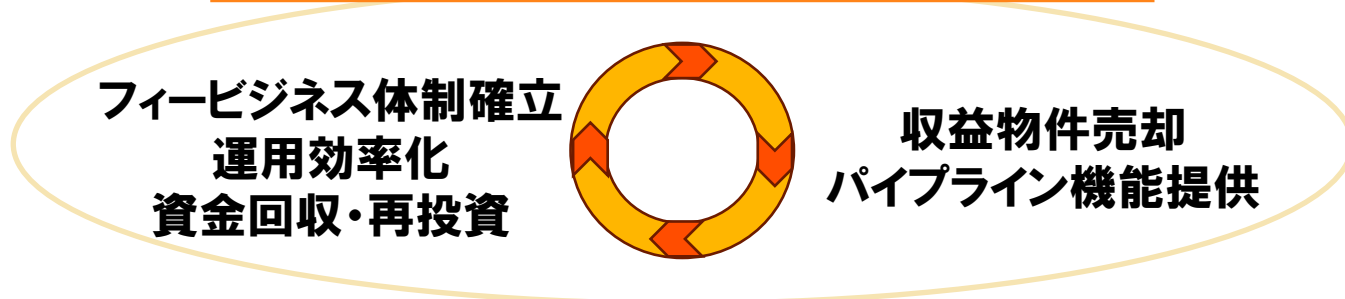
‘なんかいね’があふれてる

不動産事業の成長戦略

- これまでの長期保有を前提とした開発だけでなく、不動産回転型ビジネスの推進により、大家業からの脱却、収益拡大と資本効率向上をめざす



リートを活用した回転型ビジネスの推進



私募リートの持続的な成長

3～5年以内に約500億円の資産運用規模をめざす

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

③ 未来探索

戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p59～64参照	2024年度
1 DX戦略		デジタル顧客接点の拡充で暮らしやすさ向上/地域の人々と多彩なサービスをつなぐポータルサイト構築 minapitaポイント新サービス開始(第1弾:2023.3～、第2弾:2023.11～)	
2 新規事業への 取組み加速	eスポーツ事業に本格参入 → eスポーツ業界におけるポジショニング確立、早期マネタイズ ・eスタジアム株式会社 事業開始(2022.6)	【自治体協業】 eスタジアム泉佐野、eスポーツキャンプ 【企業協業】 eスタジアムいずみ	事業創出支援プログラム「Fly beyond」(社員向け)／「beyond the Border」(社外向け) 新規事業開発プログラム発 テニスコート予約事業の収益化を達成 次年度以降に向けた布石として、eスポーツに 続く事業化を目指して新たな案件を創出
3 外国人との共生		ハード/ソフトの両面で外国人とともにサステナブルなまちづくりを推進 ＜ハード面＞新今宮に所有する当社施設内に学生寮を誘致 ＜ソフト面＞海外IT人材紹介事業「Japal」 産学金提携:6件、不動産会社との提携:1件、累計58名の人材を41社に紹介	
4 ツーリズム関連事業 の強化		観光コンテンツの拡充/PRIによる旅客誘致推進/旅行商品の造成/新たなマネタイズ方式の確立 ツーリズム戦略の深度化、事業化	紀伊半島・和歌山エリア戦略の推進
5 ニューノーマルでの 新たなサービス提供		新しいライフスタイルサービスの創出 【2023年度の実施策】 ・鉄道会社初 車庫内での貸し切りキャンプイベント ・3店舗目の直営シェアオフィス「Lieflice堺東」開業 ・ベビーカーシェアリングサービス「ベビカル」実証実験@泉北ニュータウン ・「南海観光レコメンドマップ」を期間限定で提供	「生活を便利にするサービス」をコンセプトに 前例にとらわれない斬新な発想で、 これまで培ってきた 「新しいサービスを創る力」に磨きをかける

‘なんかいいね’があふれてる

未来探索：ツーリズム戦略(和歌山エリア・ソリューション)

- ツーリズム戦略の「エリア・ソリューション」を深掘りすべく、地域に根差した活動に取り組む体制を整備
- 他社と連携、共創しながら、当社グループの経営資源も活用し、和歌山エリアの滞在・周遊型ツーリズムの促進をめざす

ツーリズム戦略

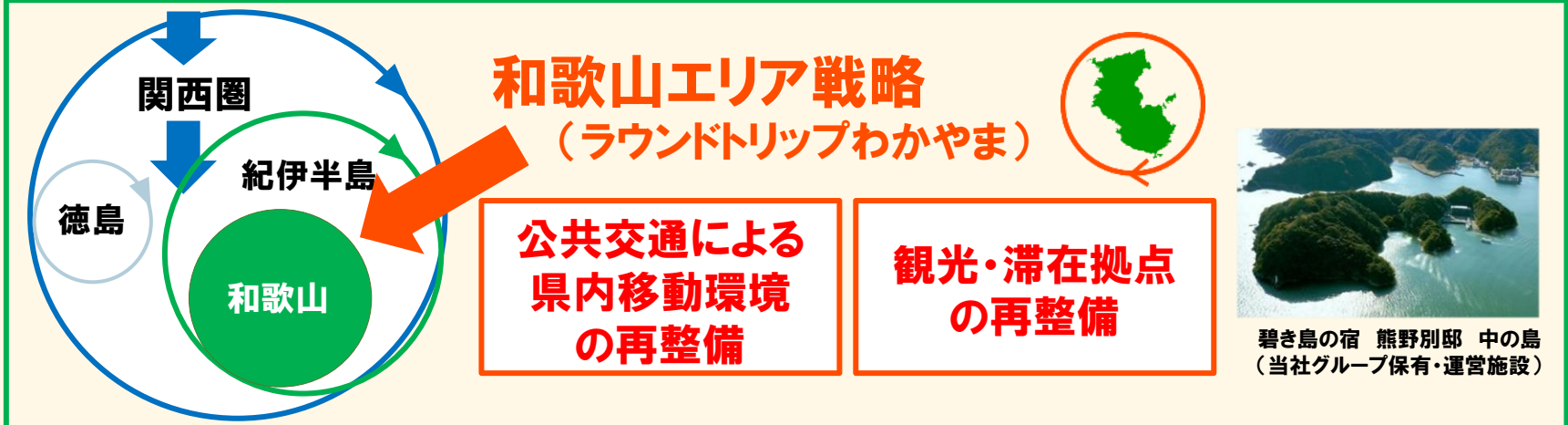
移動の価値の
再定義

移動の目的を
創出・事業化

海外ダイナミズムの
取り込み

デジタル・
マーケティング

エリア・ソリューション



‘なんかいね’があふれてる

未来探索：ツーリズム戦略(今後の取り組み)

- ツーリズム戦略全体を推進するために、和歌山県内に拠点を構え、共創パートナーとの連携深度化を進める
- エリア全体の地域GDP増大をめざし、3つの事業軸を育成

今後取り組む3つの事業軸

① 地域事業者支援

メインクライアントを地域の事業者と捉え、各事業者の課題支援に取り組む

(例) 人材の確保・DX対応など

② コンサルティング事業

自治体や民間事業者のさまざまな業務へのコンサルティングを通じた代行業務など幅広いサポート業務を行う

(例) 公募事業や事務局代行など

③ エリア開発

地域の魅力を国内外に発信するために、地域の良さの再整理と、アセットを含む新たな目的地づくりに取り組む

(例) ラグジュアリーホテル誘致など



新たな人の交流を創出し、さらなる雇用や産業が生まれる
「自立・自走型のサステナブルな地域エコシステム」を構築

(参考)「空飛ぶクルマ」の実用化に向けた連携協定

- 和歌山県、株式会社IHI、株式会社長大、当社の4者で、次世代モビリティとして期待される「空飛ぶクルマ」の実用化に向けた連携協定を締結
- 2025年大阪・関西万博の機運醸成等を図るとともに、和歌山県内への誘客促進、地域の活性化に向け協力体制の構築、地域社会の発展に寄与

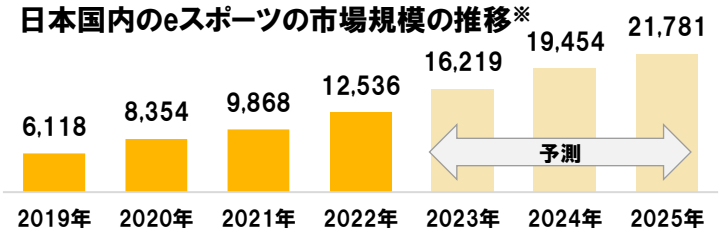


「空飛ぶクルマ」連携協定締結式

未来探索：新規事業への取り組み加速・DX戦略

eスポーツ事業の進展

- 2025年に向けて国内のeスポーツ市場は年平均20%を超える成長率で拡大する見込み
- eスポーツプレイヤーのファン層であるライトユーザーをメインターゲットにビジネスモデルを構築
- マネタイズには時間を要するものの、自治体からの運営受託モデル(to G)を事業基盤に民間企業との協業(to B)による収益機会の拡大を企図



※出典：一般社団法人日本eスポーツ連合「日本eスポーツ白書2023」

大阪府泉佐野市の「eスポーツ MICE コンテンツ実証事業」の事業受託者となり、「eスポーツ先進都市・泉佐野」の確立を目指した活動を実施



DX戦略(顧客接点の深耕)

- DX戦略の一環として、南海グループが展開する「minapita(ミナピタ)ポイントサービス」をリニューアル
- 鉄道会社初の「施設・エリア限定ポイント」がもらえるキャンペーンなどを実施(～2024年3月)
- デジタルマーケティングに基づく施策を展開し、データ分析により定量的に成果を可視化
→ 加盟店拡大もあり、沿線商業施設に一定数の送客効果



施設・エリア限定ポイントのエリアイメージ

‘なんかいいね’があふれてる

泉北高速鉄道株式会社との経営統合

- 当社と完全子会社である泉北高速鉄道株式会社との経営統合を予定
- 2025年度早期の経営統合実現をめざし、諸準備を進める

サステナブル経営(公共交通、まちづくり)の実現

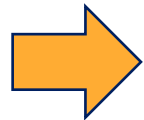
鉄道・不動産を営む両社の経営資源を統合 → サステナブルな事業体制を確立

- 鉄道人財の確保・活躍促進
- 鉄道施設の一本化や各機能の統合による経営効率の向上
- 物流施設の高度化への経営資源の集中投下

堺・泉北エリアのさらなる活性化、価値向上の深化

ポテンシャルを有する堺・泉北エリアの「暮らす・働く・訪れる」魅力をさらに向上

- まちづくりやブランド向上を一本化された意思決定の下、さらに深化
- 初乗り運賃の二度払い解消を企図した運賃値下げによるお客さまの利便性向上



運賃値下げによる減収影響が見込まれる一方、
利用促進施策による収益拡大に加え、
経営の一元化に伴う事業効率化により、中長期的な収益向上をめざす

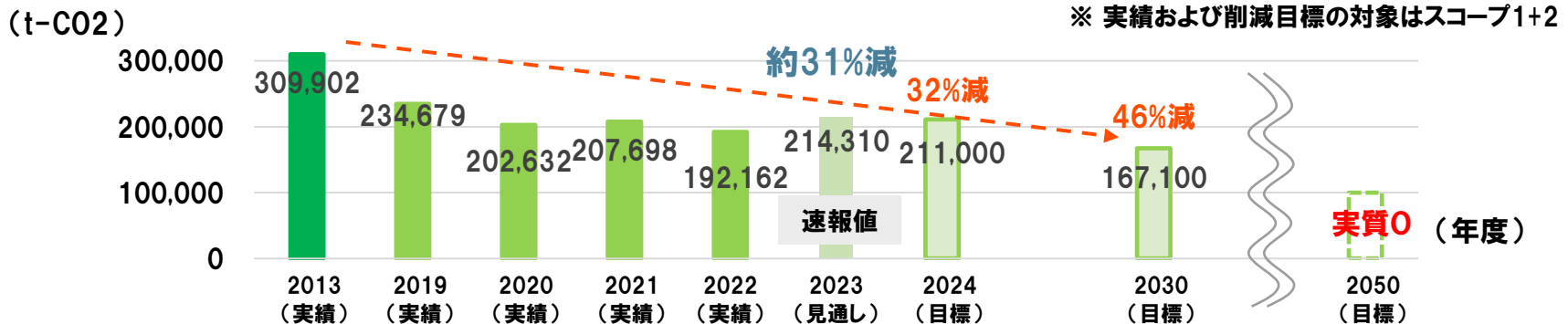
IV. サステナブル経営の取り組みについて

具体的な取り組み (1)

脱炭素社会の実現

● CO2排出量削減の取り組みを推進

- 2023年度は2013年度比で約31%減少の見込み
 省エネ車両更新効果などもあり、目標に向けて堅調に推移
 輸送需要の回復に伴う空港線ダイヤ復活などにより、電気使用量は増加傾向



ラピート CO2フリーで運行開始

- 2024年4月1日から、特急ラピート全6編成が実質的に再生可能エネルギー100%で運行開始
- 年間で約2,000tのCO2排出量を削減



統合報告書2023が優秀賞受賞

- 日本経済新聞社主催「第3回日経統合報告書アワード」にて2年連続で「優秀賞」を受賞

NIKKEI 日経統合報告書アワード
 Integrated Report Award 2023

統合報告書2023は[こちら](#)をご参照ください

具体的な取り組み(2)

人的資本経営の実践に向けて

- 中長期的な企業価値の向上に資する「人的資本経営」の実践に向け、南海グループ人財戦略を策定

「ひと、まち、暮らし」に‘なんかいいね’があふれてる、
活気に満ちたサステナブルな社会の実現

2050年の企業像
「関西にダイバーシティを築く事業家集団」

全ての事業・業務の中で
イノベーションに取り組む

社会やお客さまの望みを捉えて実現できる、「個々の力」と「組織の力」の相乗効果

個々の力
(=多様な能力と共通の基盤)



組織の力
(=個々の力を活かす土壌)

人的資本への投資

南海グループ人財戦略

人財確保・育成方針

多様な人財と
多様な専門性の向上

グループ共通の
価値観浸透とスキル向上

社内環境整備方針

いきいきと健康に
働ける環境づくり

イノベーションに
取り組む環境づくり

考え方

- ・ サステナブルな社会の実現に向けて、全ての事業・業務において社会やお客さまの望みをとらえて実現するイノベーションに取り組む
- ・ そのためには「南海グループで働く人の幸せや充実・成長」が必要不可欠であるため、積極的な投資と取り組みを行う
- ・ 「人財確保・育成方針」と「社内環境整備方針」を定め、「個々の力」と「組織の力」の相乗効果を発現させる

南海グループが目指すイノベーション

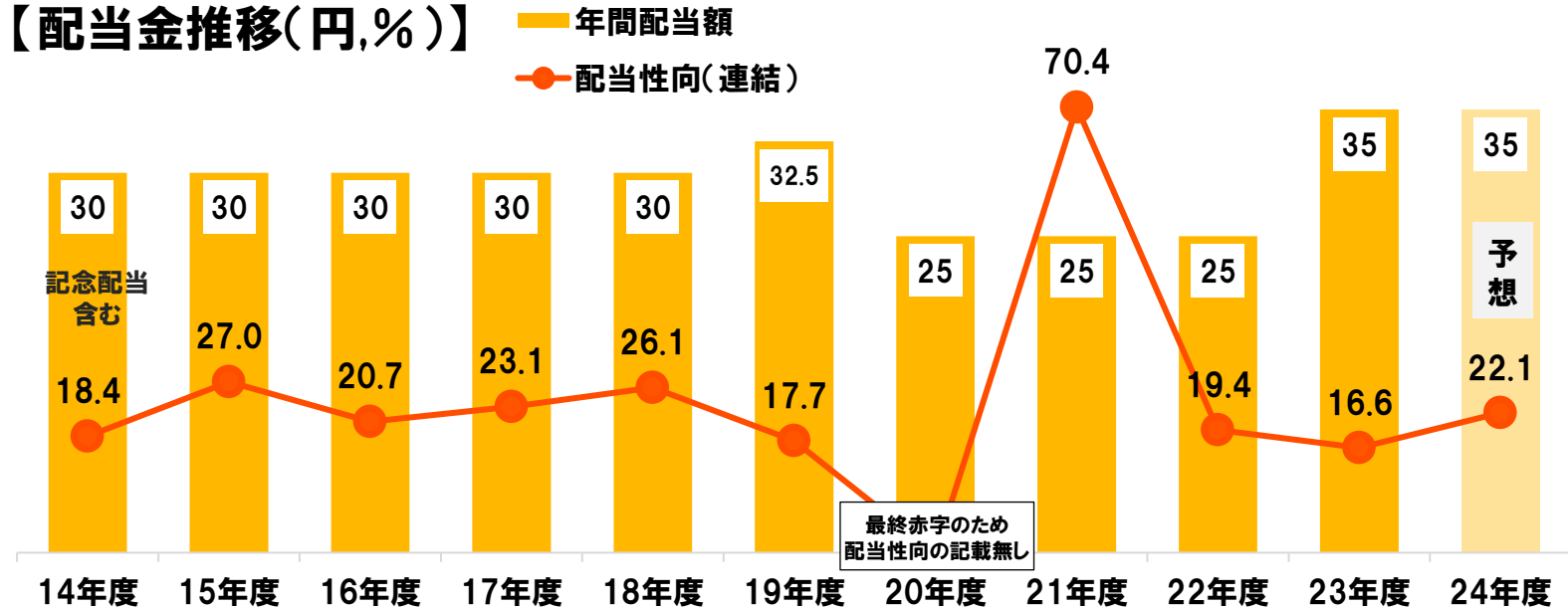
- ◆ **事業創造**
新規領域／既存事業の周辺領域での新ビジネス・サービスなどの開発
- ◆ **既存事業のバリューアップ**
収益・利益の向上、事業構造の見直し、顧客満足度・認知度・愛着度などの向上
- ◆ **業務改革**
事業活動への貢献・サポート業務プロセスの抜本的な見直し、時間の有効活用(手間の削減)のわかりやすさ・正確さの向上

‘なんかいいね’があふれてる

株主還元

- 2023年度は、コロナ禍からの順調な回復に加え、リートへの資産売却益があるものの最終利益が過去最高益を更新することなどを総合的に判断し、コロナ前の水準を上回る1株35円(前期に対し1株当たり10円増配)の配当を行う予定
- 2024年度予想についても年間配当額を35円とし、安定的な配当をめざす

【配当金推移(円,%)】



最終赤字のため
配当性向の記載無し

※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
※2017年度以前は株式併合後ベースに換算した配当額(年間)を記載

配当方針

長期にわたる安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化に努めつつ
収益のさらなる向上を図ることにより、安定的な配当原資を確保

総括

1. 共創140計画の完遂へ「成長への基礎構築」に注力

- ・ 2024年度の営業利益※予想は322億円と、共創140計画の目標値を15%引き上げ
 - ・ もう一つの目標である純有利子負債残高/EBITDA倍率も前倒しで達成したものの、収益拡大投資や未来探索における打ち手の遅れもその一因
 - ・ コロナ禍により抑制した安全更新投資の促進、物流施設の開発や収益不動産の取得など不動産事業の深化と、ツーリズムや外国人共生など「第3の事業」育成に注力
- ⇒ 成長への基礎構築の完遂に向け、スピード感をもって取り組む

2. 次期中期経営計画に向けて

- ・ 「2050年の企業像」「南海グループ経営ビジョン2027」の具現化に向けて、泉北高速鉄道との経営統合のほか、ガバナンス改革、サステナビリティ、人的資本経営に加え、資本コストの視点などを事業活動に反映
- ⇒ 中長期的な事業・財務・人事戦略策定

※ 営業利益＋受取配当金

Appendix

【参考】2023年度 主な取り組み(1)

日付	内容	開示資料URL
4/17	南海グループ4社でJCB/American Express/Diners Club/Discoverのタッチ決済が交通利用できるようになります！	URL
4/18	ヘルスケアアプリ「へるすまーと泉北」のポイントを“デジタルきっぷ”に交換できる実証実験を4月28日から開始	URL
4/19	南海電鉄×アウトドアショップOrange 和歌山市車庫でのキャンプを行います！	URL
4/24	本社部門で、TPOに応じた「自由度の高い、柔軟な服装」で勤務します！ ～変化に対応する柔軟な組織風土を目指して～	URL
5/10	「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に「なんばパークス」が選定されました	URL
5/25	「なんばeスポーツウィーク」を5月26日から開催！ 6つの心弾む体験で、最高峰のeスポーツ大会を盛り上げます！	URL
5/30	＼運転士・車掌体験など親子で楽しめる夏休みイベント満載！／ 「親子でわくわく体験!南海沿線2023～やってみたい!を育てよう～」開催	URL
6/2	SENBOKUスマートシティコンソーシアムと近畿大学が連携し、「カレッジラボ」を開催します	URL
6/8	-2023年6月15日(木)から- 通勤車両における車内防犯カメラの運用を開始します	URL
6/13	自動運転走行試験を2023年8月頃から開始します	URL
6/15	7月3日(月)直営シェアオフィス「Lieflice 堺東」オープン！～店舗コンセプトは利用者の『深み』～	URL
6/23	「eスポーツキャンプ 2023 Summer」8月21日～24日に開催決定！	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(2)

日付	内容	開示資料URL
6/30	「KANSAI MaaS」が日本版MaaS推進・支援事業に選定されました	URL
7/18	2023年11月1日(水)、minapitaポイントサービスがリニューアル！ 鉄道会社初！「施設・エリア限定ポイント」を新設	URL
8/1	「なんばEKIKAN」が大幅リニューアル！ 大阪初進出の“大型ライブハウス”など、個性豊かな4店舗が誕生！	URL
8/9	「beyond the Border」第2期を明日から募集開始！ 社外の“イノベーション人財”と、新たな事業の創出へ	URL
8/18	\おいしいをテーマに親子で楽しめるイベント満載！/ 「『わくわくおいしい体験！南海沿線』～やってみよう！を育てよう～」開催	URL
8/18	<国内初>南海電鉄のネットワークを利用した「社内内回り方式」によるタッチ決済を実現	URL
8/22	<<日本初>>エリアの垣根を超えて！ 南海電鉄と福岡市地下鉄で、大阪・福岡タッチ決済キャンペーン(20%割引)を実施します！	URL
8/24	「泉ヶ丘駅前活性化計画」の新築建設工事延期および事業計画見直しについて	URL
9/4	「パークスガーデン」過去最大規模のリニューアル！ “タッチングネイチャー”をコンセプトに“五感没入型の都心の杜”を創る	URL
9/5	KANSAI MaaSアプリのリリースについて ～国内初の鉄道事業者連携による広域型MaaSアプリが始動！～	URL
9/5	ヘルスケアアプリ「へるすまーと泉北」 全国初！歩いて貯めたポイントで「オンデマンドバス」に乗ろう！ 10月1日から実証実験を開始	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(3)

日付	内容	開示資料URL
9/5	10月1日から泉北ニュータウン地域において、「南海オンデマンドバス Supported by J:COM」の実証事業を実施	URL
9/15	10月21日(土)に南海線のダイヤを修正します	URL
9/21	泉北ニュータウンで子育て世代に向けたサービスを拡充 ベビーカーシェアリングサービス「ベビカル」実証実験開始!	URL
9/25	「第2回Japal交流会」を開催! \IT技術レベルは? 日本語能力は? ...すべての疑問を解消します/	URL
9/25	「なんばパークスミュージアム」を開業します オープニングイベントは「美少女戦士セーラームーン ミュージアム」を開催	URL
9/27	関西イノベーションネットワーク2号投資事業有限責任組合(愛称:イノベーションファンド25Next)への出資について	URL
10/3	「南海沿線 まちの参観日」を開始! 第一弾は、河内長野市と共催で、「リアルな暮らしを知るイベント」と「転入特典の進呈」を実施!	URL
10/10	オープンファクトリーと連携したエンターテインメント型マッチングイベント「ものづくり合説」を開催します	URL
10/11	“ちょけ”から始まる次世代のエンタメクリエイターインレジデンスプログラム「Chokett」始動 なんばのエンタメを共に創るクリエイターを募集します!	URL
10/18	『パークスガーデン』リニューアル第1期エリアが11月10日オープン! “タッチングネイチャー”を体現した「感じて・創って・育てて」楽しめる5つのイベントを開催	URL
10/18	minapitaポイントサービスがいよいよリニューアル! キャンペーンも実施!	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(4)

日付	内容	開示資料URL
10/23	和歌山市/南海電気鉄道/事業構想大学院大学 公民共創、企業間連携を加速させる「共創シティ・サスティナブルわかやまプロジェクト研究」の発足を発表	URL
10/24	閑空に直結する世界からの玄関口・グレーターなんばに2025年春、新たな「オフィスビル」が誕生! 10月26日に着工	URL
10/24	恵美須町駅前に“シェアスタイル型賃貸マンション”「サザンクレストなんば南」が竣工します	URL
11/1	南海プライベートリート投資法人の運用開始に向けた当社保有不動産の組入れに関するお知らせ	URL
11/8	11月23日「なんば広場」が誕生！社会実験を開始	URL
11/10	中百舌鳥駅のリニューアル工事が一部完了しました	URL
11/10	中百舌鳥駅に新たな商業エリアが誕生 「N. KLASS(エヌクラス)中百舌鳥」グランドオープン！	URL
11/15	QRコードを利用した 特急券付きデジタル乗車券をインバウンド旅客向けに発売します	URL
11/16	「南海プライベートリート投資法人」運用開始	URL
11/27	なんばエリアの当社オフィス・商業施設のワーカーサポート施策がアプリでさらに充実！	URL
11/28	SENBOKUスマートシティコンソーシアムにおけるヘルスケア事業の推進に係る包括合意書の締結について	URL
12/5	南海電気鉄道株式会社と堺市が包括連携協定を締結しました	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(5)

日付	内容	開示資料URL
12/8	南海グループ4社で交通利用できるタッチ決済ブランドに、「銀聯」を追加します	URL
12/19	2024年1月20日(土)に高野線・泉北高速線のダイヤを修正します	URL
12/20	連結子会社である泉北高速鉄道株式会社との経営統合に関する基本合意のお知らせ	URL
12/22	\当社2年目社員が壁画デザイン考案！／ 今宮戎駅がリニューアルします	URL
1/10	JR西日本と南海電鉄が関西空港駅にて「ユーザデバイス操作型AI案内システム」の共同実証実験を実施	URL
2/5	和歌山県、株式会社IHI、株式会社長大及び南海電気鉄道株式会社の「空飛ぶクルマ」の和歌山県内での実用化に向けた連携協定の締結について	URL
2/8	住民共創スマートシティの実現に向けた地区課題と事業者サービスのマッチング事業を開始します	URL
2/8	なんばで「働く・学ぶ・暮らす」みなさんのコミュニティプラットフォーム「難波(なんば)100人カイギ」開幕	URL
2/15	南海本線・高師浜線(高石市)連続立体交差事業 高師浜線が4月6日(土)始発から全線高架化・運行再開	URL
2/27	「eスポーツゲームクリエイターアカデミー2024春」を開催！	URL
2/28	「南海オンデマンドバス Supported by J:COM」実証事業の実施結果を公表します	URL
2/28	【日本初】官民共同で、QRコード乗車券を無償で提供する実証事業を行います	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(6)

日付	内容	開示資料URL
2/28	南海電鉄の「働く」×レオパレス21の「住まい」の両面で企業をサポートします！	URL
3/5	中百舌鳥駅4番線ホームのホームドアが稼働します～3月12日(火)10時より～	URL
3/7	スイスの姉妹鉄道「モントルー・オーベルラン・ベルノワ鉄道」とコラボした、特急ラピート ラッピング列車を運行します！	URL
3/11	～踏切事故を防止～AIを用いた踏切異常検知システムの導入試験を開始	URL
3/14	「KANSAI MaaS」新たなサービスの追加について	URL
3/15	2024年度賃金および臨時給等について	URL
3/21	海外人財と日本企業の共創イベント ～海外人財の社内受け入れ体制について具体的に何をすれば良いの？～	URL
3/26	『パークスガーデン』リニューアル第2期 4月26日グランドオープン リニューアルしたガーデンを舞台に記念イベントを開催！	URL
3/28	-特急ラピート運行&セレッソ大阪クラブ設立30周年記念コラボ企画- 「セレッソ大阪」ラッピングラピートを運行開始に伴う出発式を開催	URL
3/29	すべての特急ラピートが再生可能エネルギー100%で走行します	URL
3/29	- 高野山世界遺産登録20周年企画 - 記念ヘッドマークを掲出した2300系車両を期間限定で運行します！	URL

【参考】設備投資の内訳(事業戦略別)

- 事業戦略骨子に沿い、適切な投資枠を確保
- 「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立を目指し、一定の投資額を“サステナブル投資”に振り向ける

1. 公共交通事業のサステナブルな経営

520億円： → 592億円

- サステナブルな交通ネットワーク維持のため、計画的な安全投資および更新投資を実施する

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

930億円： → 714億円

- REITにより開発資金を確保しつつ、なんばエリアや泉ヶ丘エリア、物流施設の高度化等に集中投資する

3. 未来探索

150億円： → 80億円

- 鉄道と不動産に続く第3の柱構築に向けて、中長期的な目線で予算を配分する

うち サステナブル投資(※)

- **災害対策投資:50億円**
激甚化する災害への備え・予防対策
 - **DX推進投資:60億円**
データ・デジタル技術を駆使した、新たな価値・働き方の創出
 - **CO2削減投資:190億円**
地球温暖化の緩和および脱炭素社会への移行の機会活用
 - **ブランド向上投資:120億円**
商品・サービス・コーポレート・地域のブランド向上
 - **多様性向上投資:30億円**
多様な従業員の働きやすさ向上
- **合計:390億円**(一部重複項目あり)

※サステナブル経営に掲げるマテリアリティ実現に向けた主な投資

‘なんかいいね’があふれてる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027

《2027年のありたき姿》

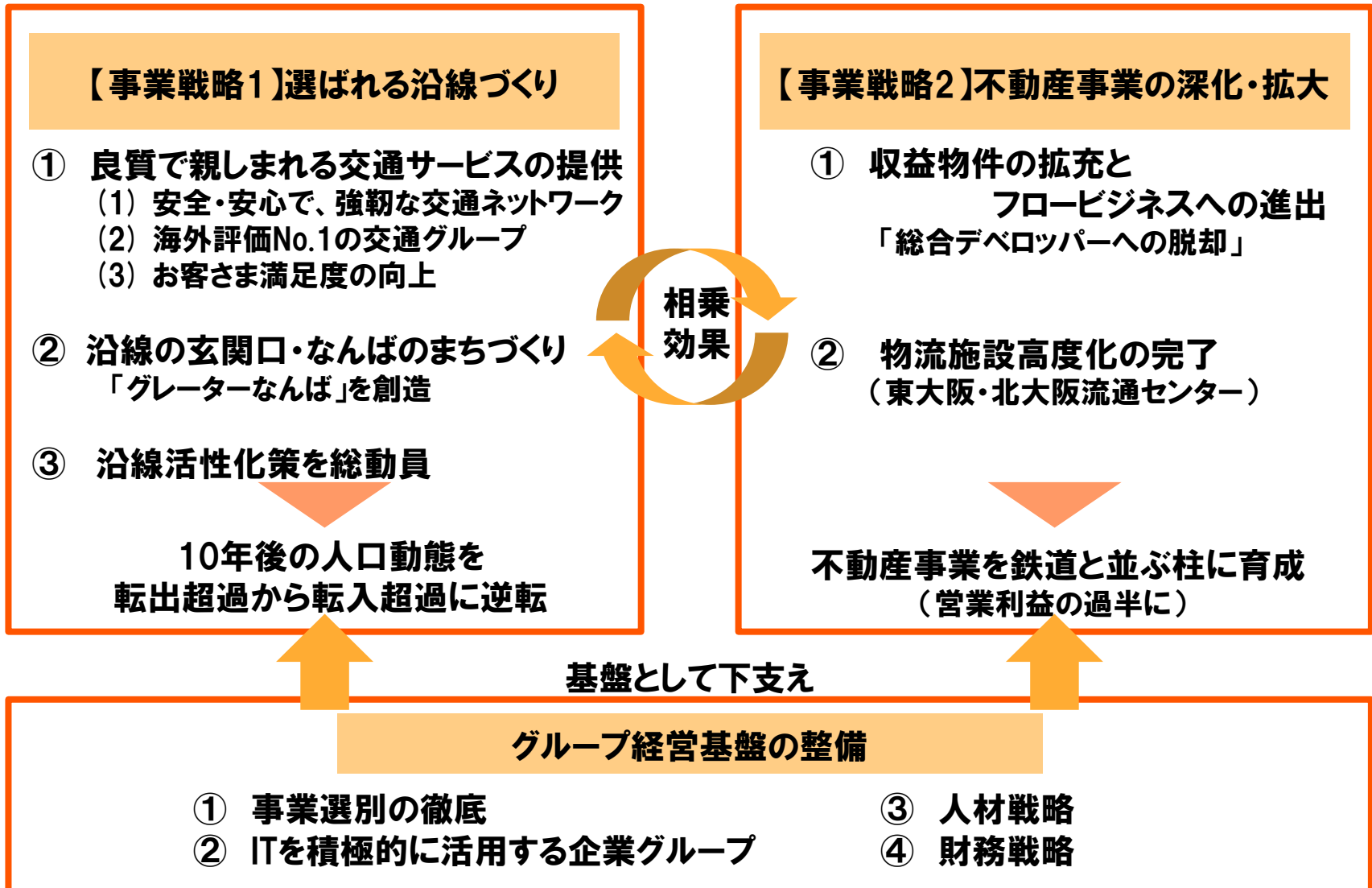
**満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる**

位置づけ

**なにわ筋線開業に向け、
沿線を磨く10年間**

- 沿線を主たる事業エリアとし、グループの総力を挙げて沿線価値向上に注力する
- 「なんば」と「インバウンド」をビジネスチャンスとして活用することで、沿線価値向上を加速させる
- アライアンスを積極活用することで、事業展開をスピードアップさせる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027：事業戦略骨子



‘なんかいいね’があふれてる

【参考】南海が描く“2050年の企業像”

地域共生・共創 多様な暮らし方

地域の人々とともに

地域密着を旗印に、地域・沿線の人々とのつながりを大切に保ち、多種多様な人々が幸せに暮らせる多彩な“まち”を、地元と一体となって創っていく。

モビリティ

公共交通事業者としての使命

これまで沿線で培ってきた安全・安心の運輸事業の歴史とその責任を、“人と人”、“まちとまち”、そして“人とまち”をつなぐ多様なモビリティ事業への深化で具現化し、未来につなげていく。

沿線への誇りを礎に、

関西にダイバーシティ^(※)を築く

事業家集団

多様性・グローバル

“Think Globally, Act Locally”

関空という世界(アジア)とつながる玄関口、そして“なんば”という多彩なまち…、これからも世界から多様な人々が集うこの地に寄り添いながら、互いの価値観や個性を認め、高めあえる多様性を育てていく。

南海らしさ

“みらい”を自ら切り拓く強い意志

創業からの長い歴史、その道筋で築いてきた南海グループの文化とアイデンティティ、そしてこの先の新たなロードマップ。私たちは、社会の一員としての使命と責任を胸に、新しいことに“挑戦し”、“やりきる”事業家集団となり、南海の“みらい”を切り拓いていく。

(※) **ダイバーシティ:**

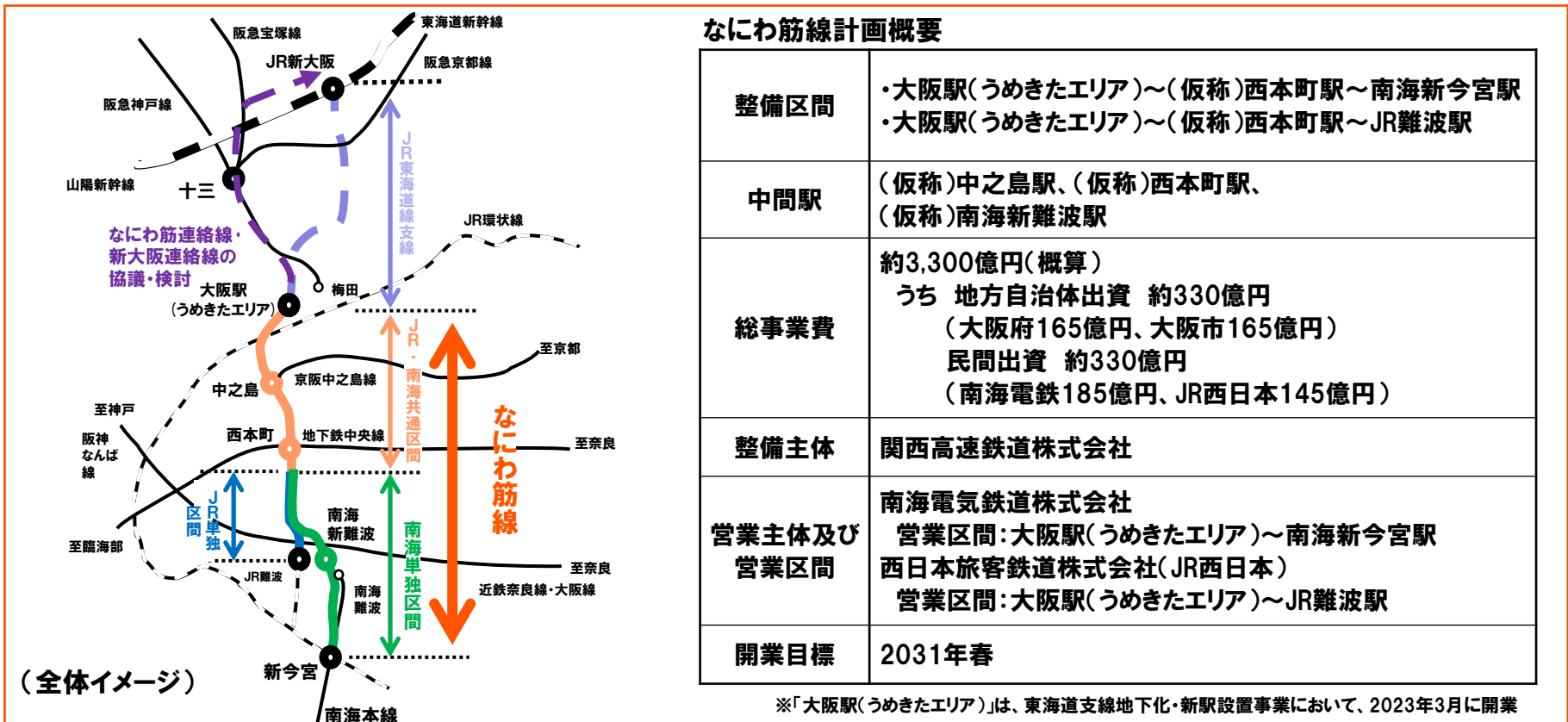
「多様性」に代表される“Diversity”と、「多様性あふれる街」を意味する“Diverse City”=“DiverCity”(造語)の2つの想いを表現している

‘なんかいね’があふれてる

【参考】なにわ筋線計画について

● なにわ筋線

- ・ 2019年7月に鉄道事業許可の交付、2020年2月に工事施行認可の取得、都市計画決定の告示
- ・ 2021年度下期以降、中之島駅部、西本町駅部では本格的な工事に着手、南海新難波分岐トンネル部・駅部では開削工事に向けた準備工事を推進中
- ・ 引き続き用地買収を進めるとともに、その他区間の工事にも着手し、2031年春の開業を目指す



‘なんかいね’があふれてる



(参考)

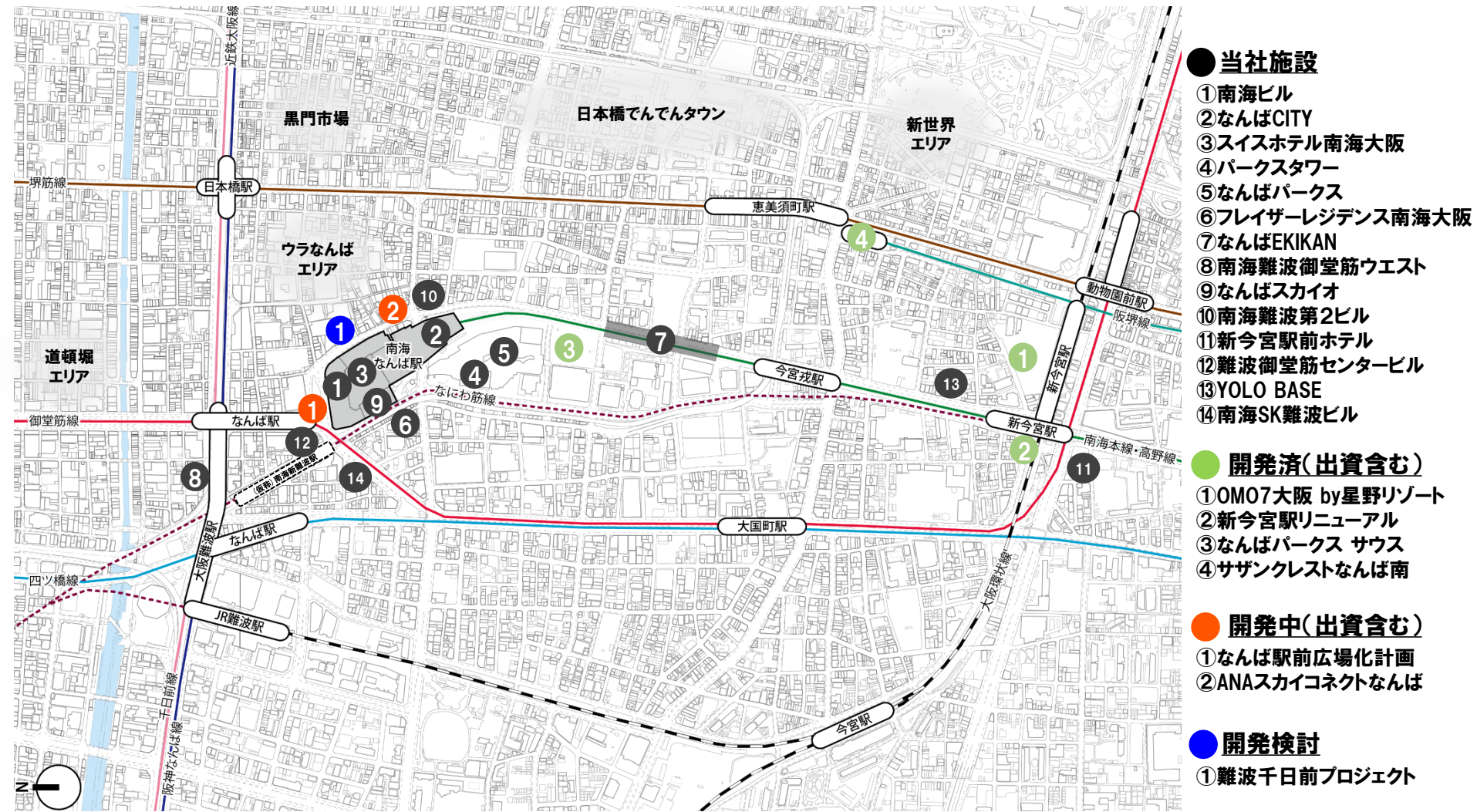
- ・ なにわ筋連絡線・新大阪連絡線は、2017年度の国による調査が行われ、良好な結果が得られた
- ・ 調査結果を踏まえて、早期事業化を目指し、関係者での協議・検討を進める

【参考】沿線マップ



‘なんかいね’があふれてる

グレーターなんばエリア 主な当社施設(MAP)



● 当社施設

- ① 南海ビル
- ② なんばCITY
- ③ スイスホテル南海大阪
- ④ パークスタワー
- ⑤ なんばパークス
- ⑥ フレイザーレジデンス南海大阪
- ⑦ なんばEKIKAN
- ⑧ 南海難波御堂筋ウエスト
- ⑨ なんばスカイオ
- ⑩ 南海難波第2ビル
- ⑪ 新今宮駅前ホテル
- ⑫ 難波御堂筋センタービル
- ⑬ YOLO BASE
- ⑭ 南海SK難波ビル

● 開発済(出資含む)

- ① 0M07大阪 by星野リゾート
- ② 新今宮駅リニューアル
- ③ なんばパークス サウス
- ④ サザンクレストなんば南

● 開発中(出資含む)

- ① なんば駅前広場化計画
- ② ANAスカイコネクットなんば

● 開発検討

- ① 難波千日前プロジェクト

※なにわ筋線:現在整備中の路線

‘なんかいいいね’があふれる

【参考】グレーターなんばエリア 主な当社施設(一覧表)

施設名	賃貸面積	竣工年月(取得年月)	主な用途
①南海ビル	49,827㎡	1932年7月	高島屋大阪店、店舗
②なんばCITY	約33,200㎡	1978年※2	商業施設
③スイスホテル南海大阪	61,557㎡	1990年3月	ホテル
④パークスタワー	36,500㎡	2003年8月	オフィス、店舗
⑤なんばパークス	約51,800㎡	2003年10月※2	商業施設
⑥フレイザーレジデンス南海大阪	7,332㎡※1	2010年7月	サービスアパートメント
⑦なんばEKIKAN	約3,700㎡	2014年※2	商業施設
⑧南海難波御堂筋ウエスト	4,286㎡	1985年9月(2018年7月)	オフィス
⑨なんばスカイオ	45,927㎡	2018年10月	オフィス、医療施設、ホール・カンファレンス、商業サービス施設
⑩南海難波第2ビル	1,500㎡※1	1988年11月(2018年11月)	オフィス
⑪新今宮駅前ホテル	4,952㎡※1	2018年8月(2018年12月)	ホテル
⑫難波御堂筋センタービル	(当社保有分) 5,665㎡ (全体) 6,217㎡	1992年3月(2019年4月)	オフィス、店舗
⑬YOLO BASE	3,156㎡※1	2019年9月	コワーキングスペース、学生寮
⑭南海SK難波ビル	14,141㎡	1983年3月(2020年2月)	オフィス

※1 延床面積

※2 第1期オープン

(2024年5月17日現在)

‘なんかいいね’があふれてる

<IRのお問い合わせ先>

**南海電気鉄道株式会社
経営戦略グループ サステナビリティ推進部(IR担当)**

TEL :06-6644-7105

E-mail:nankai_ir@nankai.co.jp

<https://www.nankai.co.jp/>

「見通し」に関する注意事項

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。

本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。